

2026年3月期 決算説明会用資料

2026年5月27日

The logo for RHEON, featuring the word "RHEON" in a stylized, handwritten-style font with a registered trademark symbol (®) to the right.

レオン自動機株式会社

RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

証券コード (6272)

- 1. 2026年3月期 連結決算概況**
- 2. 2027年3月期 連結業績予想**
- 3. 中期経営計画 進捗状況
(2023-2027年度)**

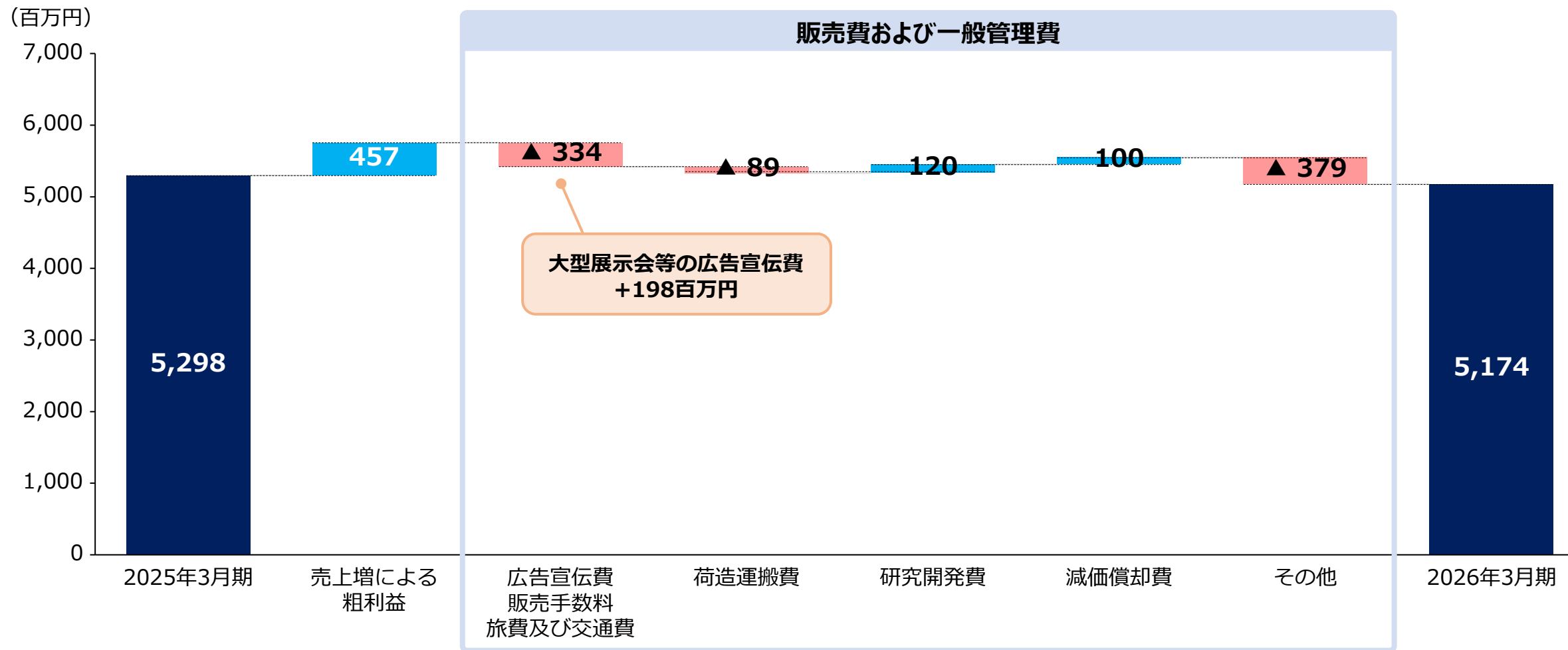
- 1. 2026年3月期 連結決算概況**
2. 2027年3月期 連結業績予想
3. 中期経営計画 進捗状況
(2023-2027年度)

◆ 連結計算書サマリー

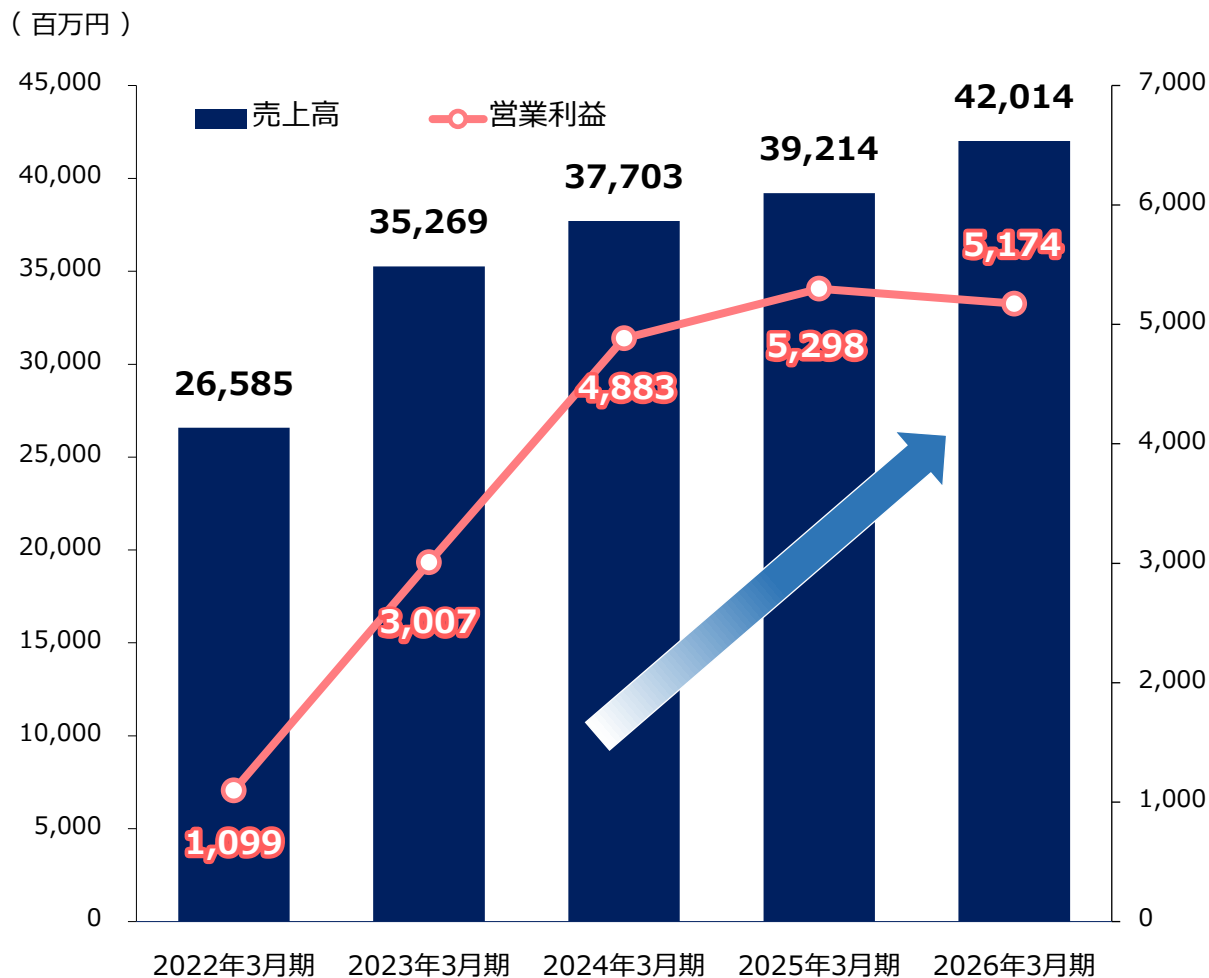
(百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期計画 (2025年11月12日)	2026年3月期 実績	増減額	増減率 (%)	2027年3月期 通期業績予想
売上高	39,214	40,520	42,014	2,799	7.1%	42,900
営業利益	5,298	5,230	5,174	▲124	▲2.3%	5,620
経常利益	5,415	5,320	5,588	172	3.2%	5,690
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,889	3,600	3,898	8	0.2%	4,020
ROE	10.4 %	—	9.5%	▲0.9%	—	9.1%
EPS	144.74 円	133.73 円	144.63円	▲0.11円	—	149.14円
配当	44.00 円	54.00 円	58.00円	14円	—	60円
期中平均為替レート	USドル= 152.58 円 ユーロ= 163.75 円	USドル= 146.00 円 ユーロ= 168.00 円	USドル= 150.77 円 ユーロ= 174.79 円	—	—	USドル=150.00 円 ユーロ= 175.00 円

◆ 営業利益増減（上期）

- 大型製パンライン等の受注継続により売上が増加し、粗利益が増加。
- 営業利益への為替影響額は1百万円。

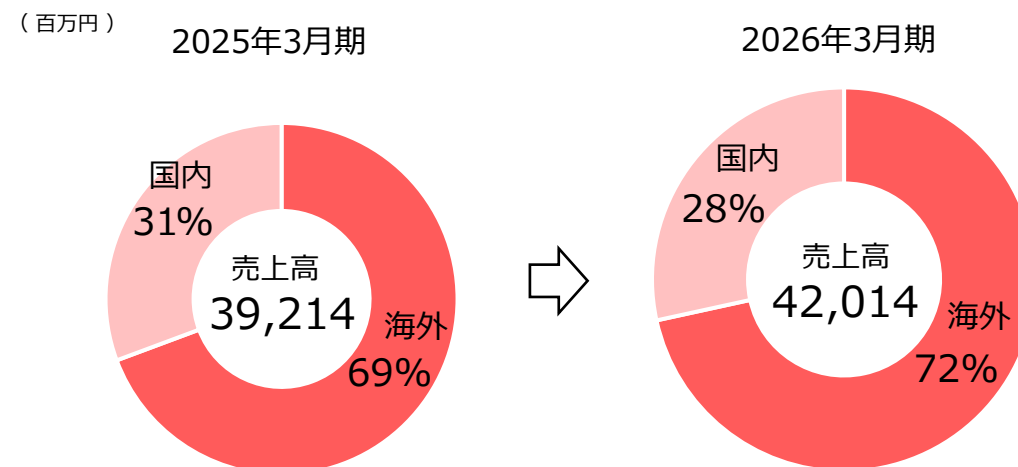


◆ 過去5年の業績推移

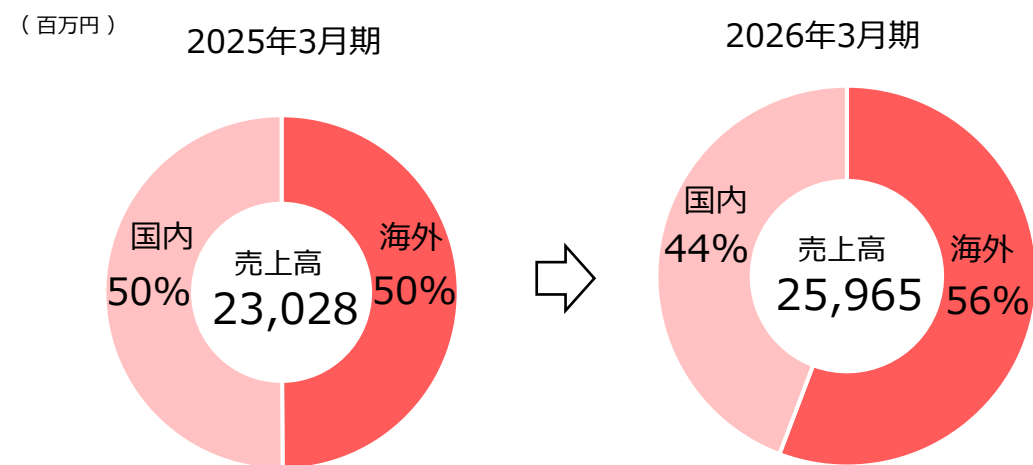


USドル	112.38 円	135.47 円	144.62 円	152.58 円	150.77 円
ユーロ	130.56 円	140.96 円	156.80 円	163.75 円	174.79 円

連結国内外売上高比率



食品加工機械製造販売事業 国内外売上高比率



◆ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《 事業別売上高・セグメント利益 》

食品加工機械製造販売事業

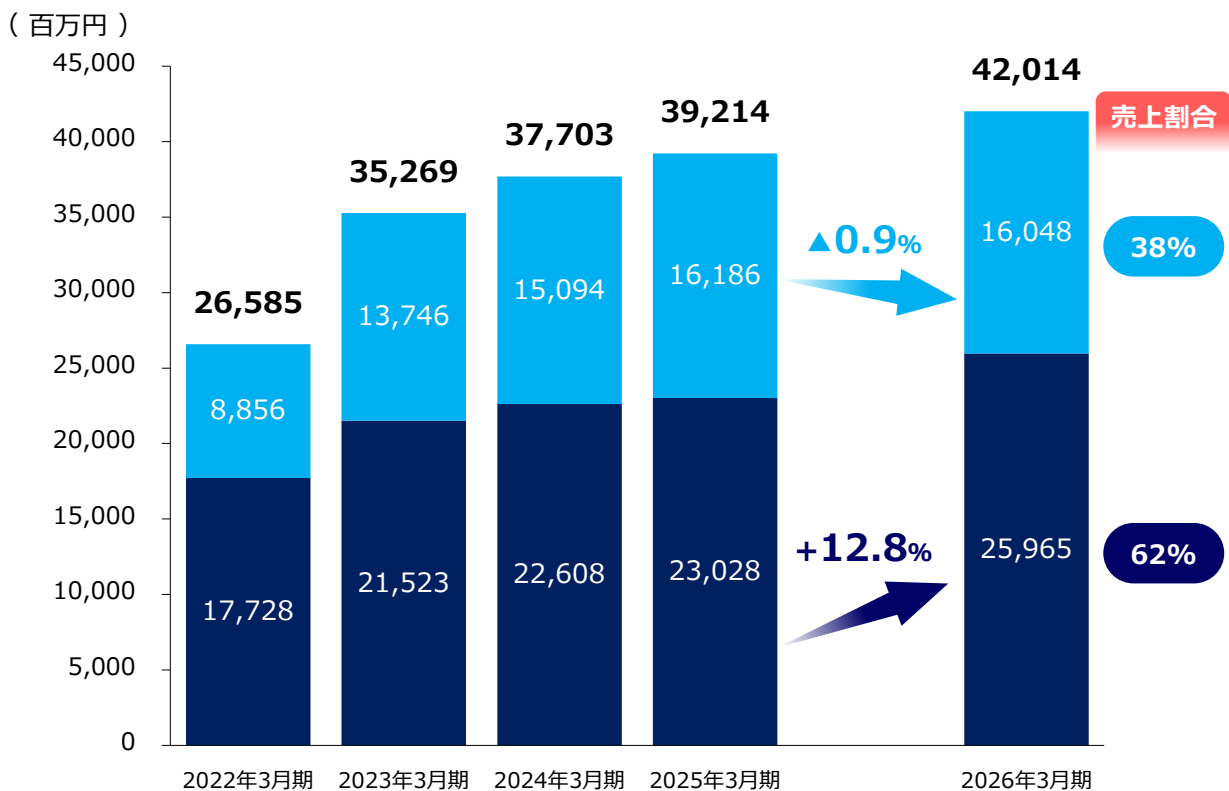
米国・アジア市場での需要が好調に推移したことにより、売上高、セグメント利益ともに増加。

食品製造販売事業

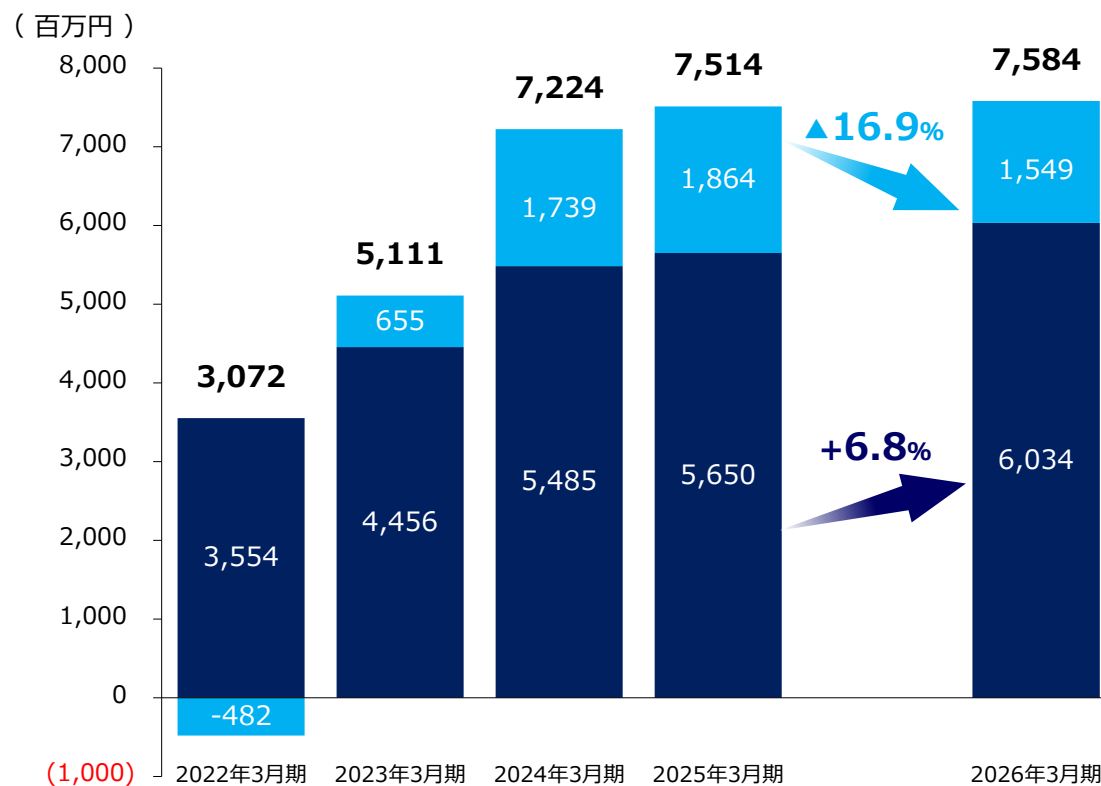
米国において、終売先の発生と円高影響により売上高、セグメント利益ともに減少。

■ 食品加工機械製造販売事業 ■ 食品製造販売事業

売上高



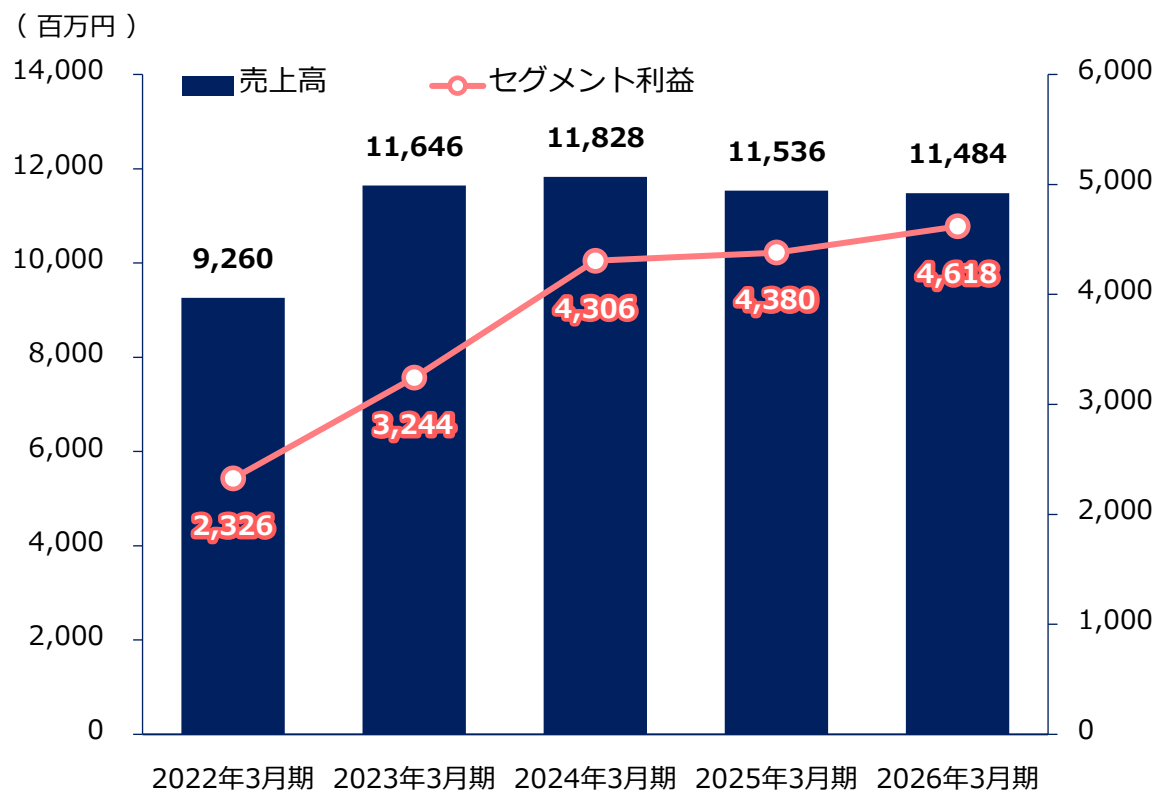
セグメント利益



◆ 食品加工機械製造販売事業 日本 《 過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳 》

- 製パンライン等においては、大手製菓・製パンメーカーからの設備更新や新規投資が見られ、売上が増加。
- 食品成形機および修理その他においては売上が減少。

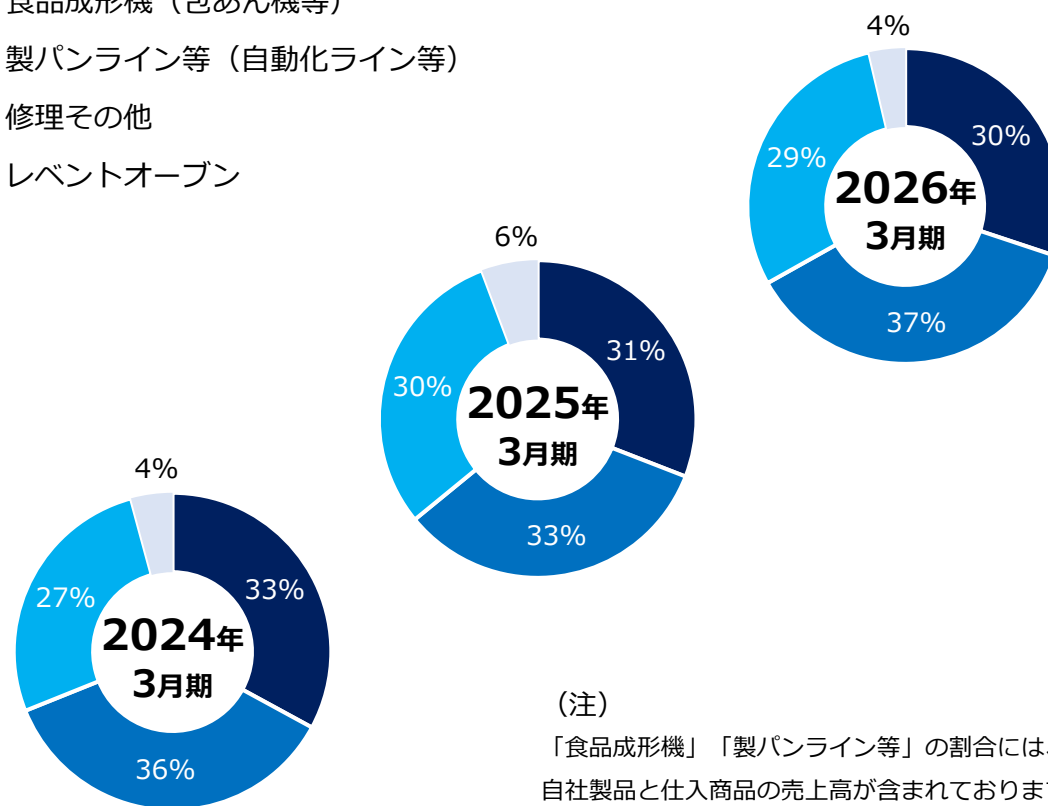
売上高・セグメント利益



売上高 対前年増減率	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
	+25.8 %	+1.6 %	-2.5 %	-0.4 %

売上高内訳

- 食品成形機（包あん機等）
- 製パンライン等（自動化ライン等）
- 修理その他
- レバントオープン

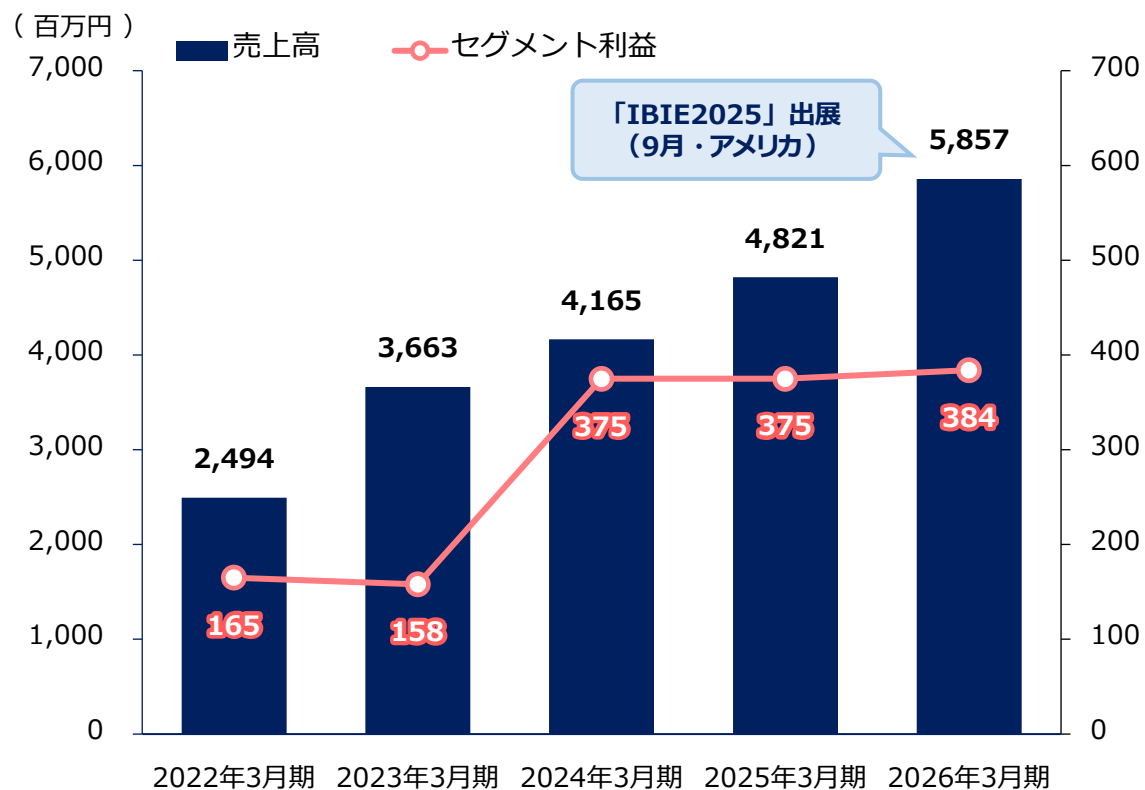


(注)
「食品成形機」「製パンライン等」の割合には、
自社製品と仕入商品の売上高が含まれております。

◆ 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

- 製パンライン等においては、アルチザンブレッド、コンチャ生産ラインの販売が好調を維持し売上が増加。
- 食品成形機および修理その他の売上也増加。

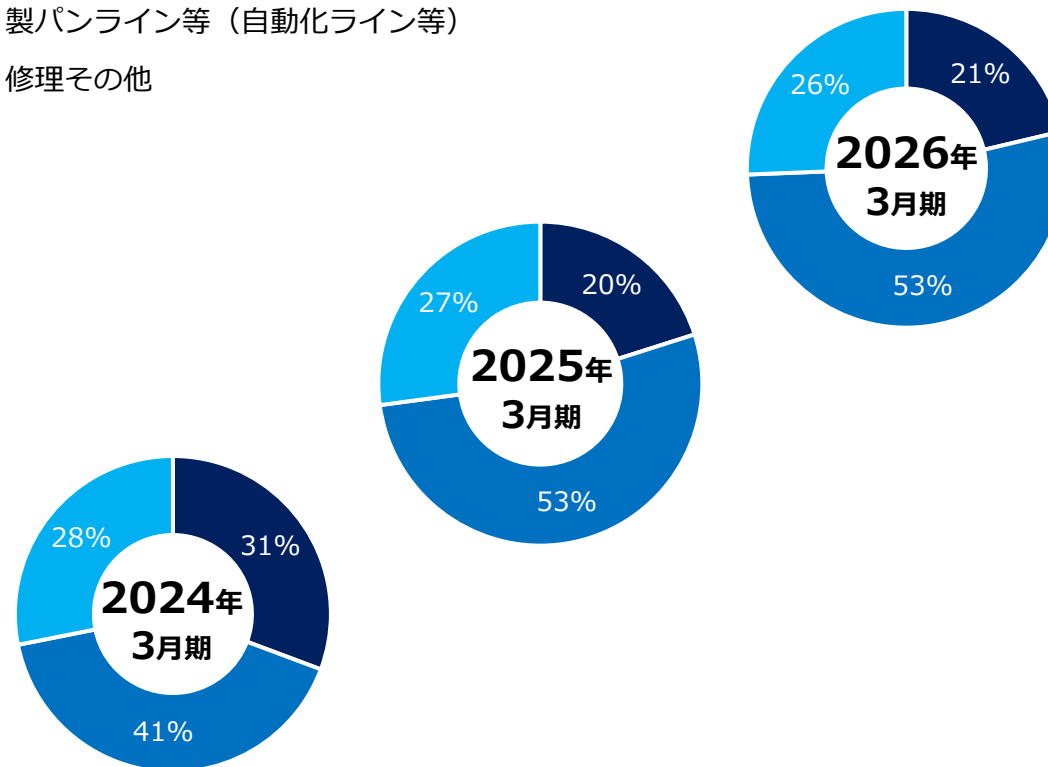
売上高・セグメント利益



売上高 対前年増減率	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
		+46.8 %	+13.7 %	+15.8 %	+21.5 %

売上高内訳

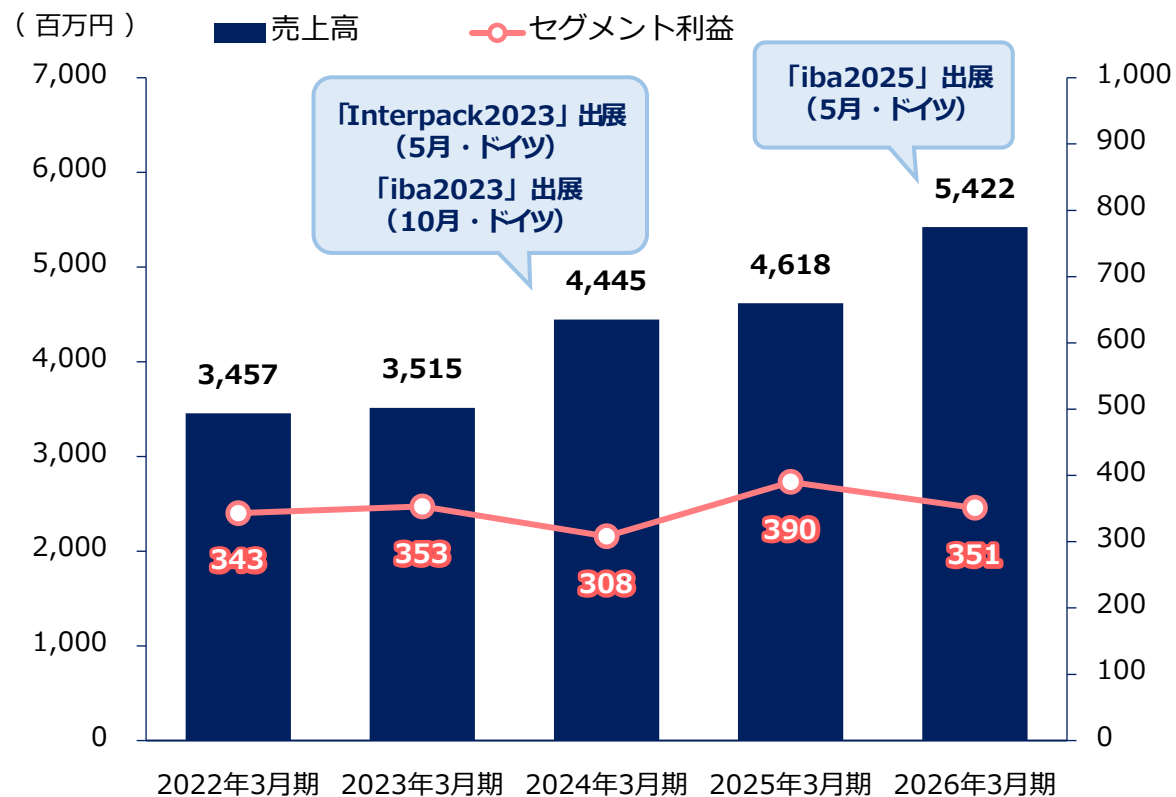
- 食品成形機（包あん機等）
- 製パンライン等（自動化ライン等）
- 修理その他



◆ 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ 《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

- 製パンライン等は主力製品である小型製パン機や、大型ラインの販売が好調で売上が増加。
- 食品成形機および修理その他の売上也増加。
- 為替円安の影響も追い風となった。

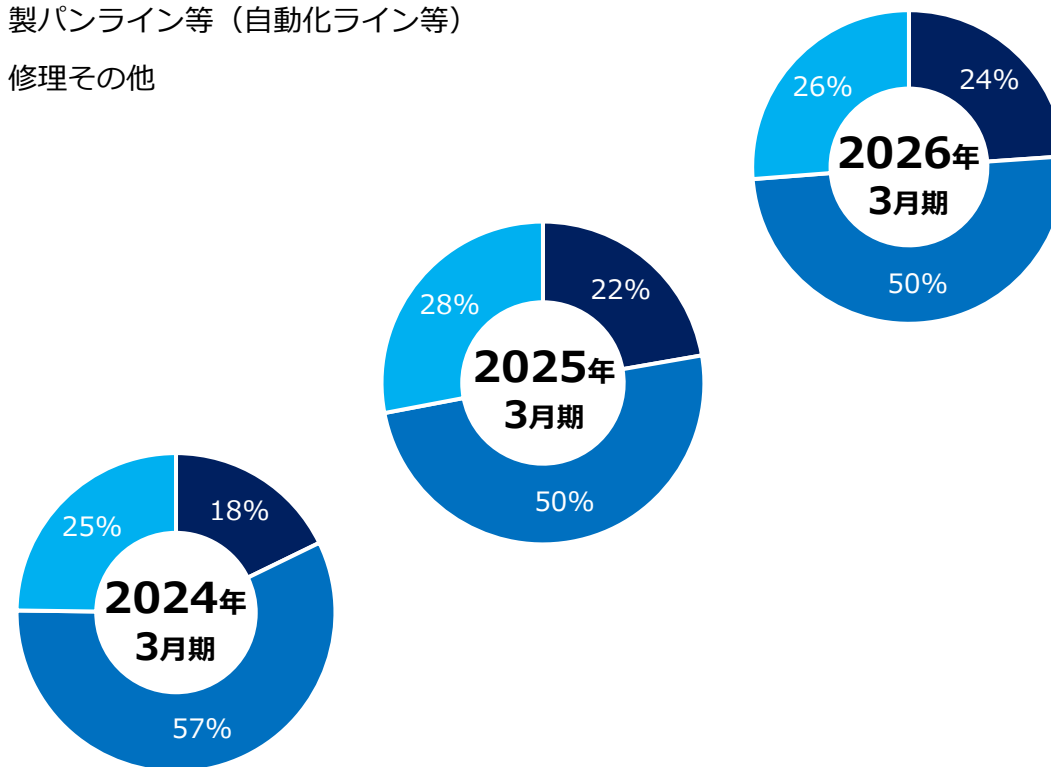
売上高・セグメント利益



売上高 対前年増減率	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
		+1.7 %	+26.5 %	+3.9 %	+17.4 %

売上高内訳

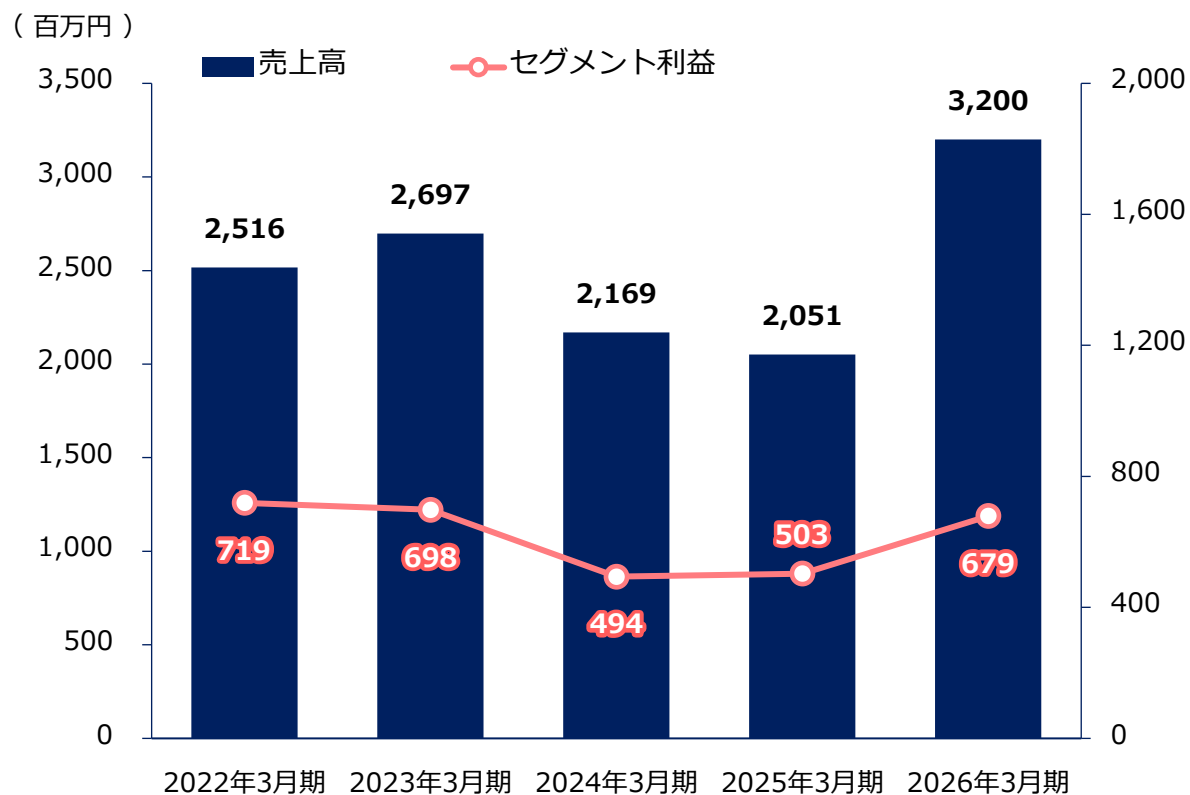
- 食品成形機 (包あん機等)
- 製パンライン等 (自動化ライン等)
- 修理その他



◆ 食品加工機械製造販売事業 アジア 《 過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳 》

- 製パンライン等は、中国や台湾、韓国および東南アジアで販売が順調に推移し、売上が増加。
- 食品成形機の販売は増加したものの、修理その他の売上は減少した。

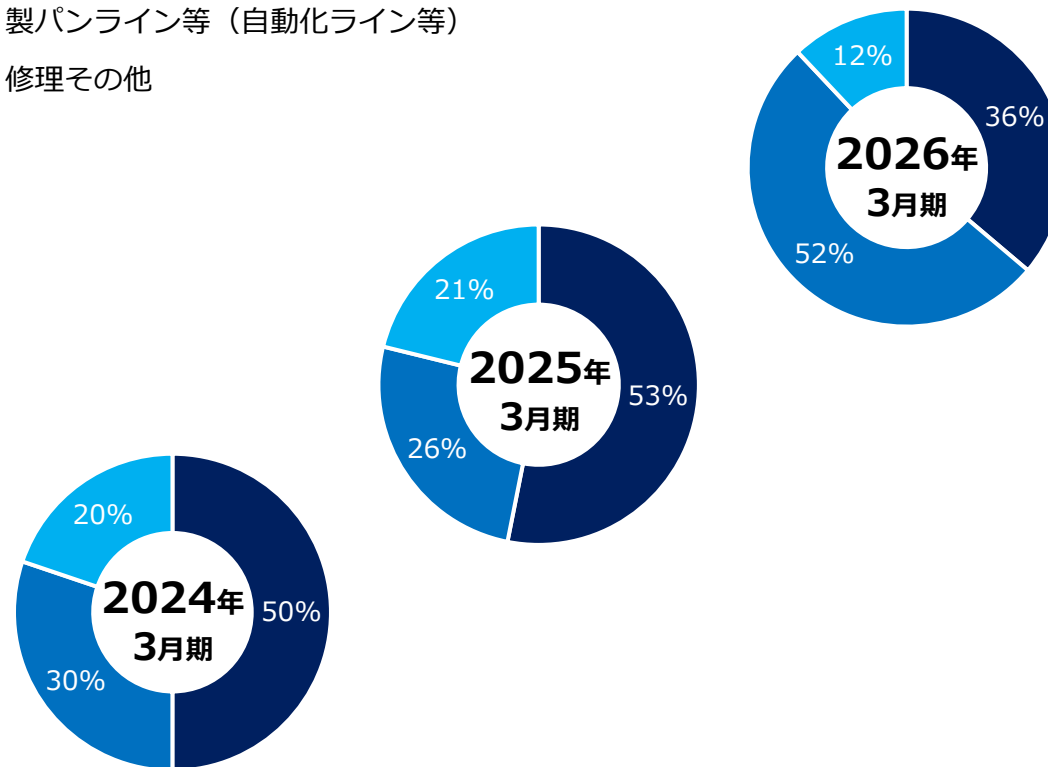
売上高・セグメント利益



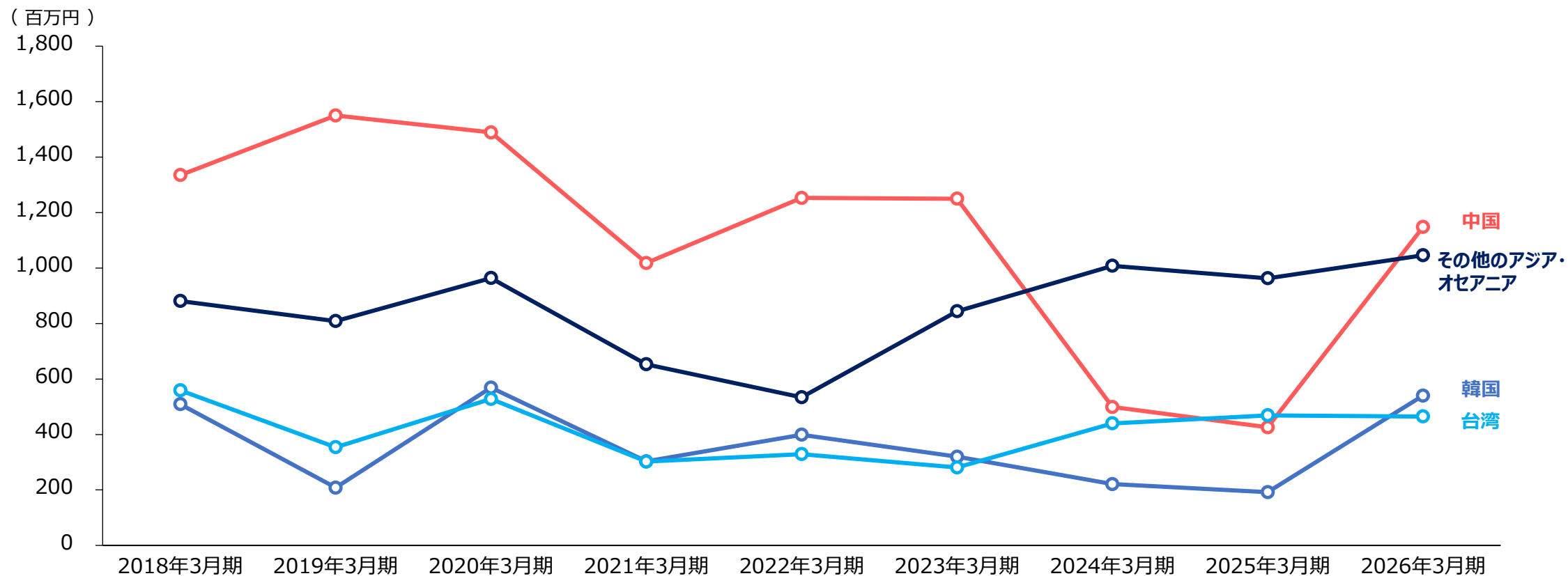
売上高 対前年増減率	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
	+7.2 %	-19.6 %	-5.4 %	+56.0 %

売上高内訳

- 食品成形機 (包あん機等)
- 製パンライン等 (自動化ライン等)
- 修理その他



◆ アジア国別 売上高推移



○—中国 (香港含む)	1,335	1,550	1,489	1,018	1,253	1,250	499	426	1,148
○—韓国	509	208	569	303	399	320	221	192	540
○—台湾	559	354	528	302	329	281	440	469	465
○—その他 アジア・オセアニア	881	809	964	653	534	844	1,008	963	1,046

◆ 食品製造販売事業 《 地域別売上高・セグメント利益 》

売上高

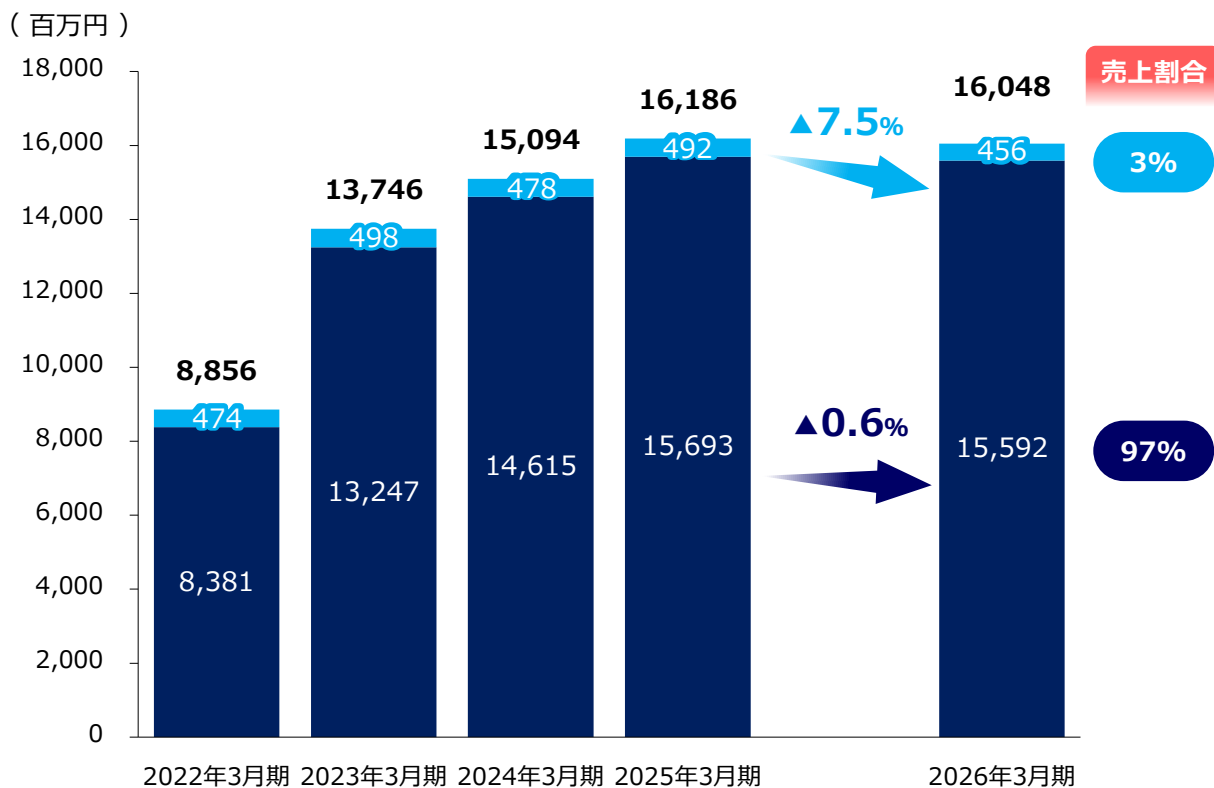
- 北米・南米 新規顧客獲得により現地通貨ベースでは売上が増加したが、円ベースでは若干減少。
- 日本 大口顧客向けの販売が減少したことにより、売上が減少。

セグメント利益

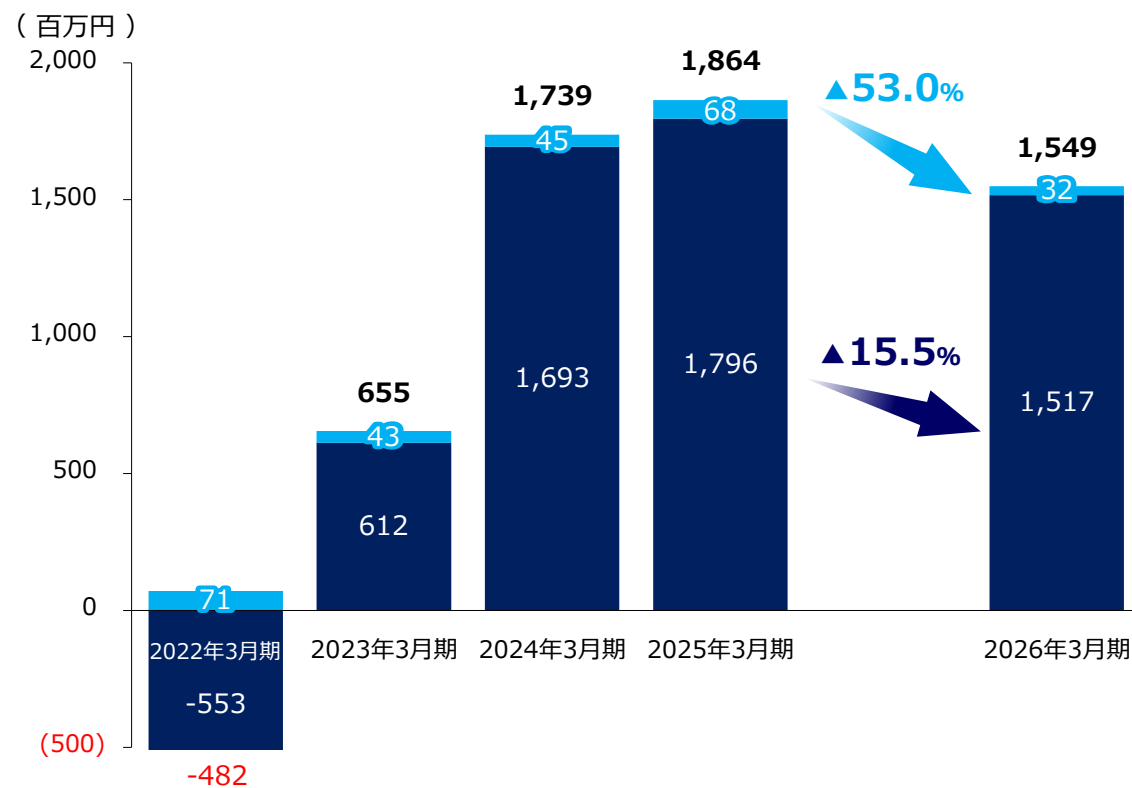
- 北米・南米 新規顧客向けの売り上げ増加に伴い、顧客獲得費が上昇し利益が減少。
- 日本 売上原価率の上昇により利益水準が大幅に低下。

■ 北米・南米 (オレンジベーカーリー) ■ 日本 (ホシノ天然酵母パン種)

売上高



セグメント利益

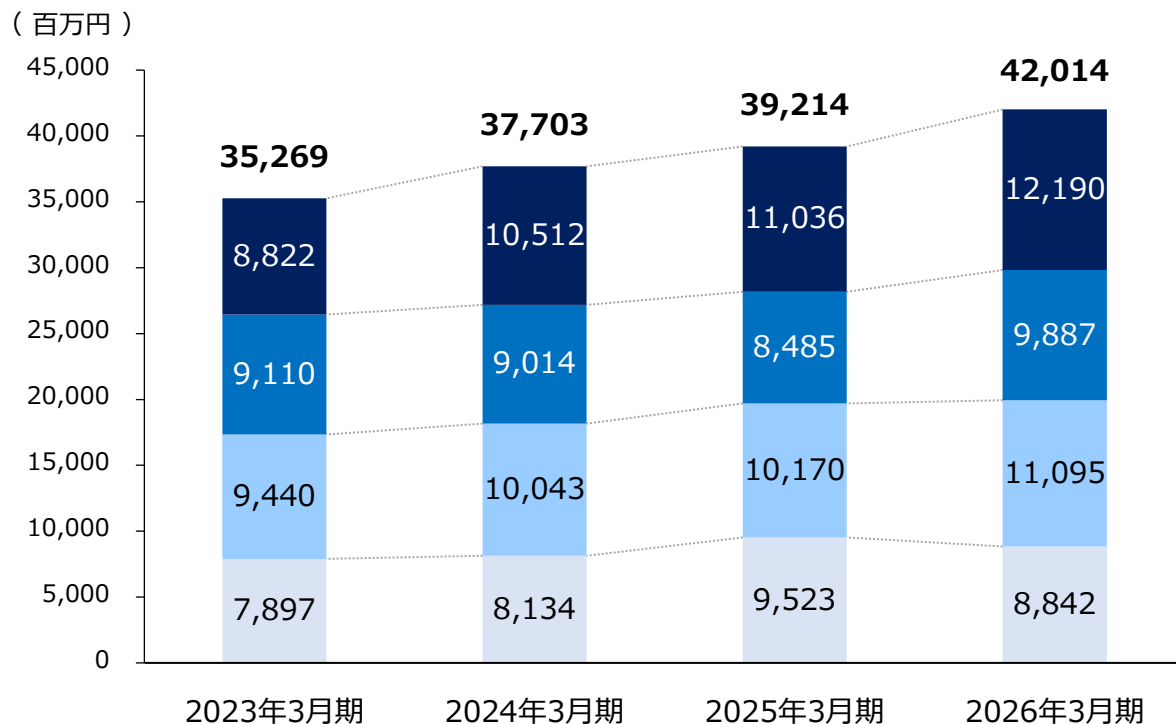


◆ 四半期毎の売上高・営業利益推移

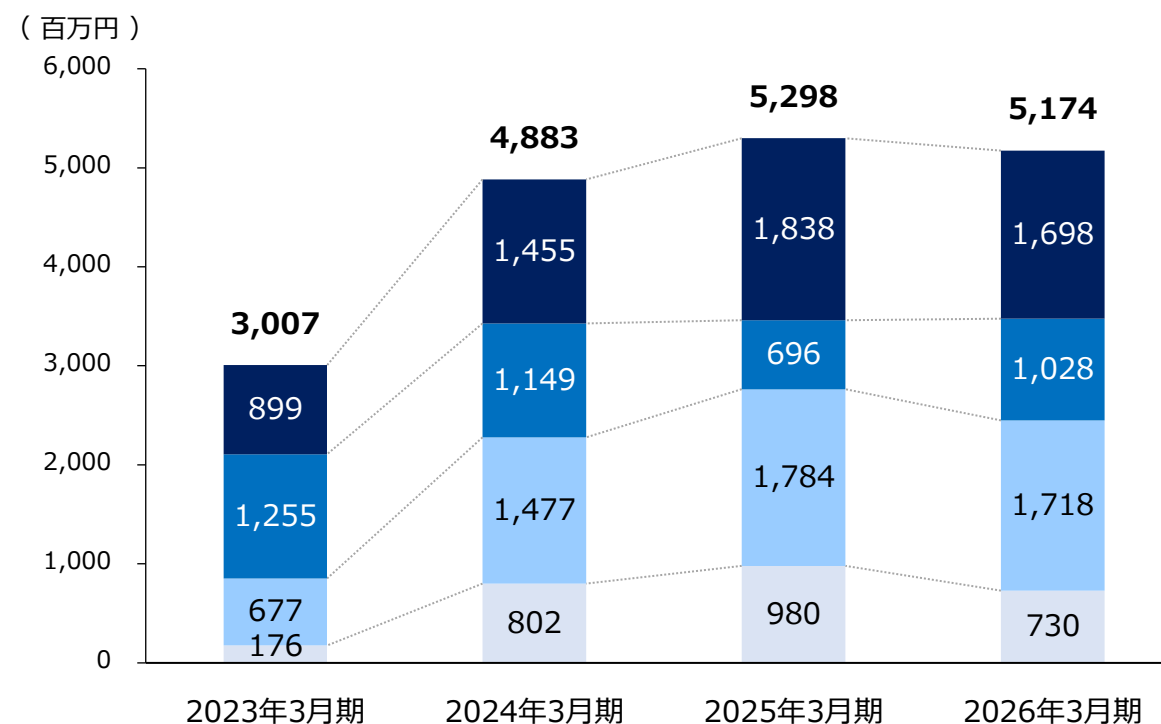
- 4Q（1月－3月）売上高は欧米・アジアの機械販売好調とオレンジベーカーリーの回復により、前年同期比10.4%増加。
- 営業利益は製パンライン等の販売増加とオレンジベーカーリーの新規顧客獲得費増加により前年同期比7.6%減少。

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q

売上高



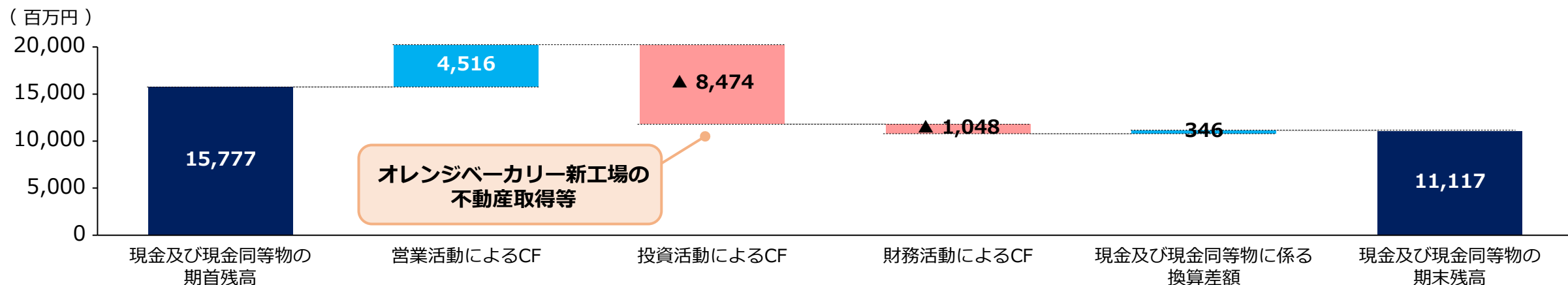
営業利益



◆ 連結貸借対照表サマリー

(百万円)	2025年3月期		2026年3月期				
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)	主な増減要因
資産合計	49,242	100 %	54,405	100 %	5,162	10.5 %	● 建設仮勘定の増加
流動資産	29,073	59.0 %	25,654	47.2 %	▲3,419	▲11.8 %	● 現金及び預金の減少
固定資産	20,168	41.0 %	28,750	52.8 %	8,581	42.6 %	● 建設仮勘定の増加 ● 投資有価証券の増加 など
負債合計	10,527	21.4 %	11,342	20.8 %	815	7.7 %	● 短期借入金の増加
流動負債	8,867	18.0 %	9,620	17.7 %	753	8.5 %	● 短期借入金の増加 ● 前受金の増加 など
固定負債	1,660	3.4 %	1,722	3.2 %	61	3.7 %	—
純資産合計	38,715	78.6 %	43,062	79.2 %	4,347	11.2 %	● 利益剰余金の増加
負債純資産合計	49,242	100 %	54,405	100 %	5,162	10.5 %	—

◆ 連結キャッシュ・フローサマリー



(百万円)	2025年3月期	2026年3月期	主な増減要因
現金及び現金同等物の期首残高	13,591	15,777	—
営業活動によるCF	5,754	4,516	<ul style="list-style-type: none"> ● 税金等調整前当期純利益 5,588 ● 減価償却費 1,502 ● 仕入債務の減少 ▲132
投資活動によるCF	▲1,999	▲8,474	<ul style="list-style-type: none"> ● 有形固定資産の取得 ▲7,989 ● 無形固定資産の取得 ▲478
財務活動によるCF	▲1,369	▲1,048	<ul style="list-style-type: none"> ● 短期借入金の増加 500 ● 長期借入金の返済 ▲298 ● 配当金の支払額 ▲1,343
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲199	346	—
現金及び現金同等物の増減額	2,186	▲4,660	—
現金及び現金同等物の期末残高	15,777	11,117	—

1. 2026年3月期 連結決算概況
- 2. 2027年3月期 連結業績予想**
3. 中期経営計画 進捗状況
(2023-2027年度)

◆ 2027年3月期 連結業績予想

- インフレや地政学リスクの高まりに加え、米国の対外政策の影響や金利、為替の動向などから、依然として先行き不透明感が強い。

(百万円)	2026年3月期実績	2027年3月期予想	増減額	増減率 (%)
売上高	42,014	42,900	885	2.1 %
売上原価	23,763	23,800	36	0.2 %
販管費	13,076	13,480	403	3.1 %
営業利益	5,174	5,620	445	8.6 %
経常利益	5,588	5,690	101	1.8 %
親会社株主に帰属する当期純利益	3,898	4,020	121	3.1 %
期中平均為替レート	USドル= 150.77円 ユーロ= 174.79円	—	—	—
想定為替レート	—	USドル= 150.00円 ユーロ= 175.00円	—	—

◆ 業績予想 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《事業別売上高》

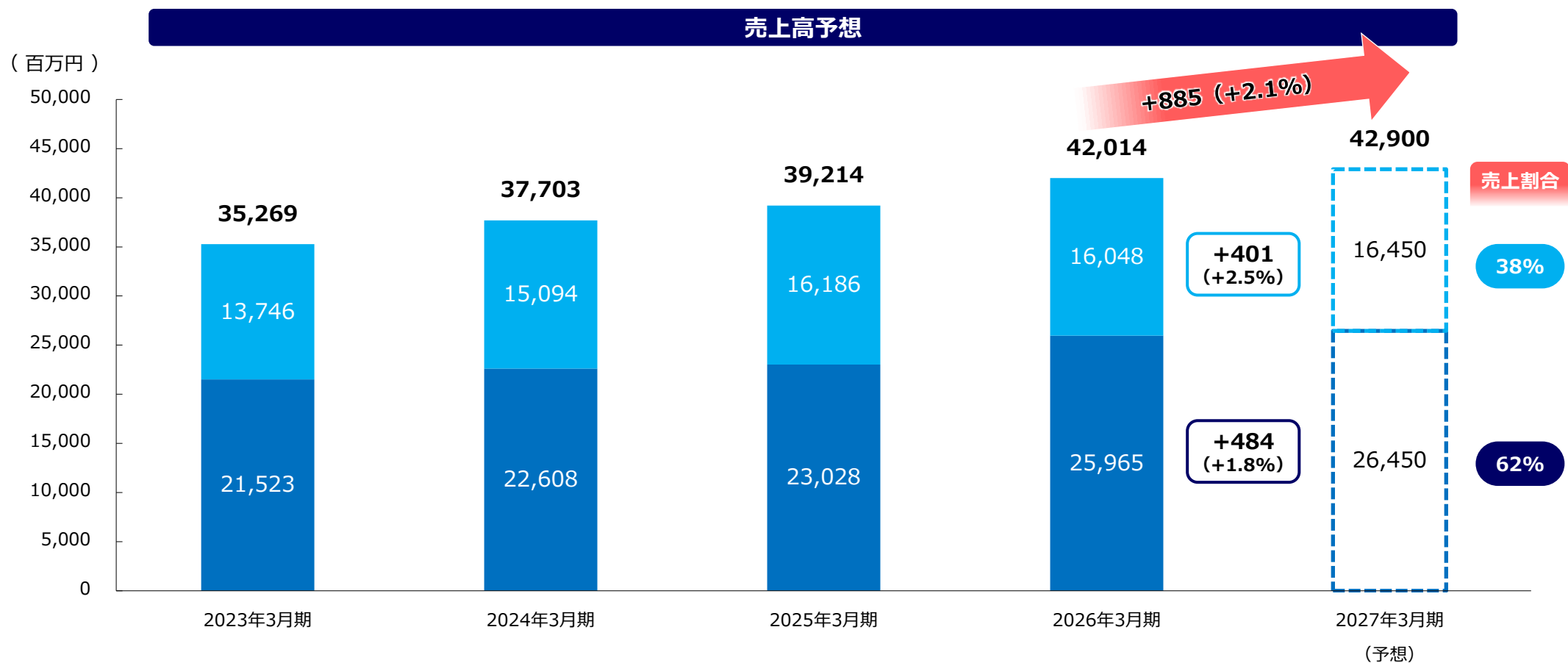
食品加工機械製造販売事業

人件費高騰に対応した自動化の設備投資需要継続により、売上高が増加すると予想。

食品製造販売事業

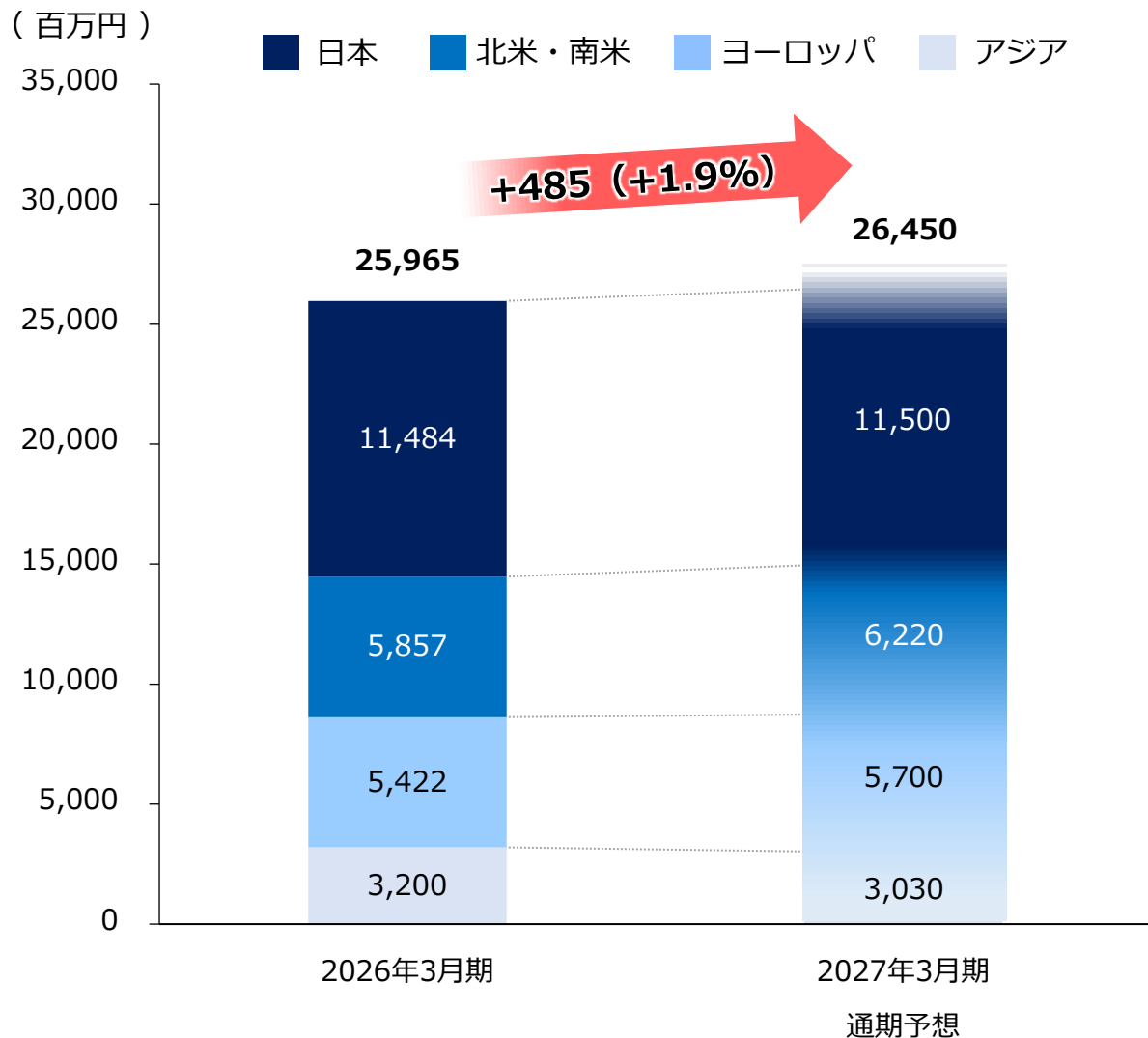
米国の人手不足を背景としたホイロ後冷凍パン需要の増加により、売上高が増加すると予想。

■ 食品加工機械製造販売事業 ■ 食品製造販売事業



◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

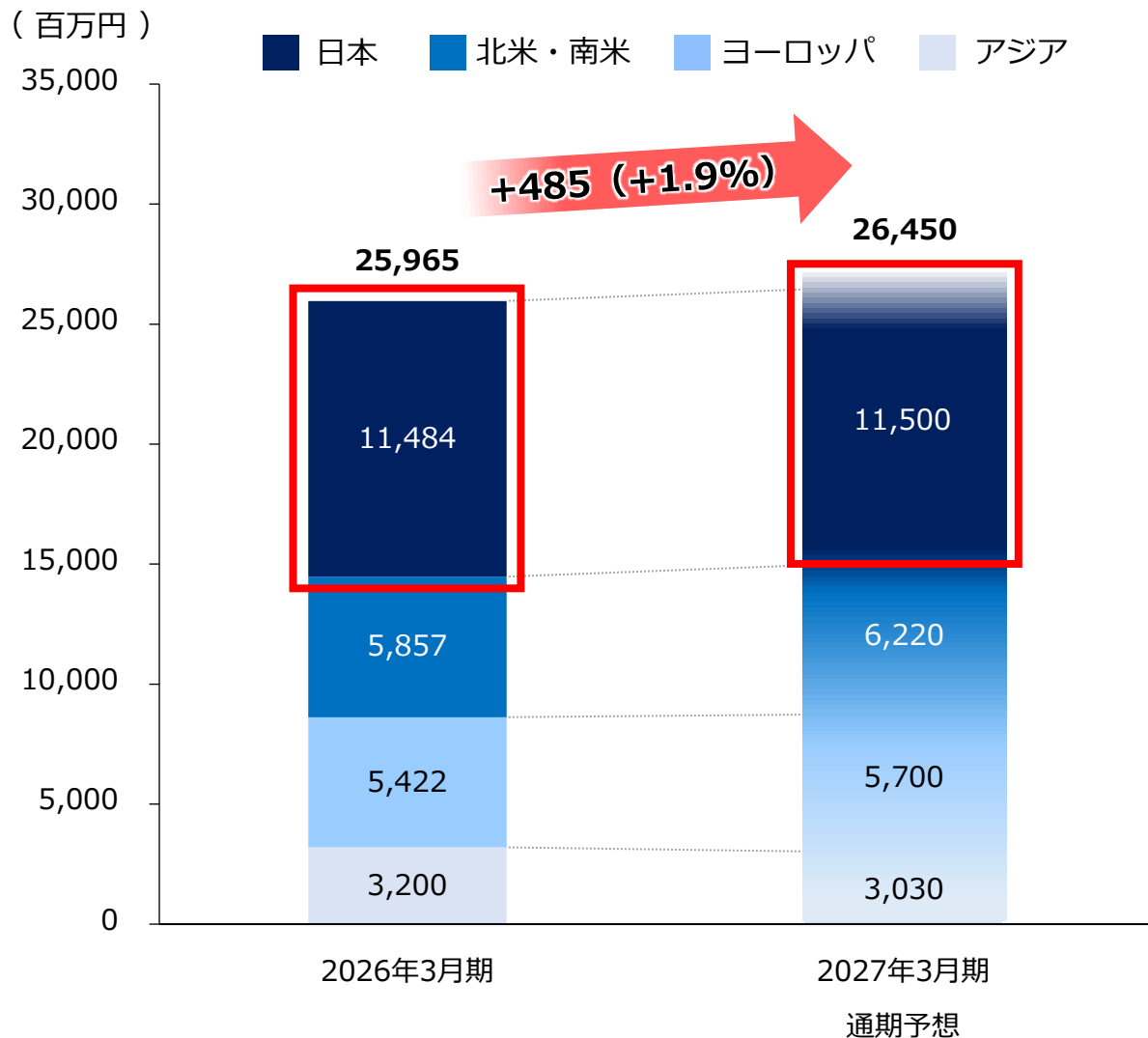
売上高予測



日本	<ul style="list-style-type: none"> ● 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想 ● 食品成形機は引き続き「中小企業省力化投資補助金」を活用した案件が増加すると予想 ● 国内全体においては、前期と同等の売上を見込む
北米・南米	<ul style="list-style-type: none"> ● アルチザンブレッド生産ラインなど大型の製パンライン等の好調な受注が継続 ● 展示会 (IBIE) での見込客へアプローチ ● 包あん機は、周辺機器とのセット販売を強化
ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> ● 主力の小型製パン機であるツインデバイダーの販売が堅調であり、ドイツ以外の地域での販売を強化 ● 食品成形機は欧州全域において需要が増加し、修理その他の売上も計画通りに推移すると予想 ● アフリカでの営業展開を引き続き強化
アジア	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国は大型案件の受注が前期比で減少するものと予想 ● 台湾、東南アジア地区で堅調な設備更新需要を見込む ● インドマーケットでは、製パン市場拡大のため現地研究会を積極的に実施し販売増加を目指す ● オセアニア地区においては、アルチザンブレッド向け小型製パン機の販売増加を目指す

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

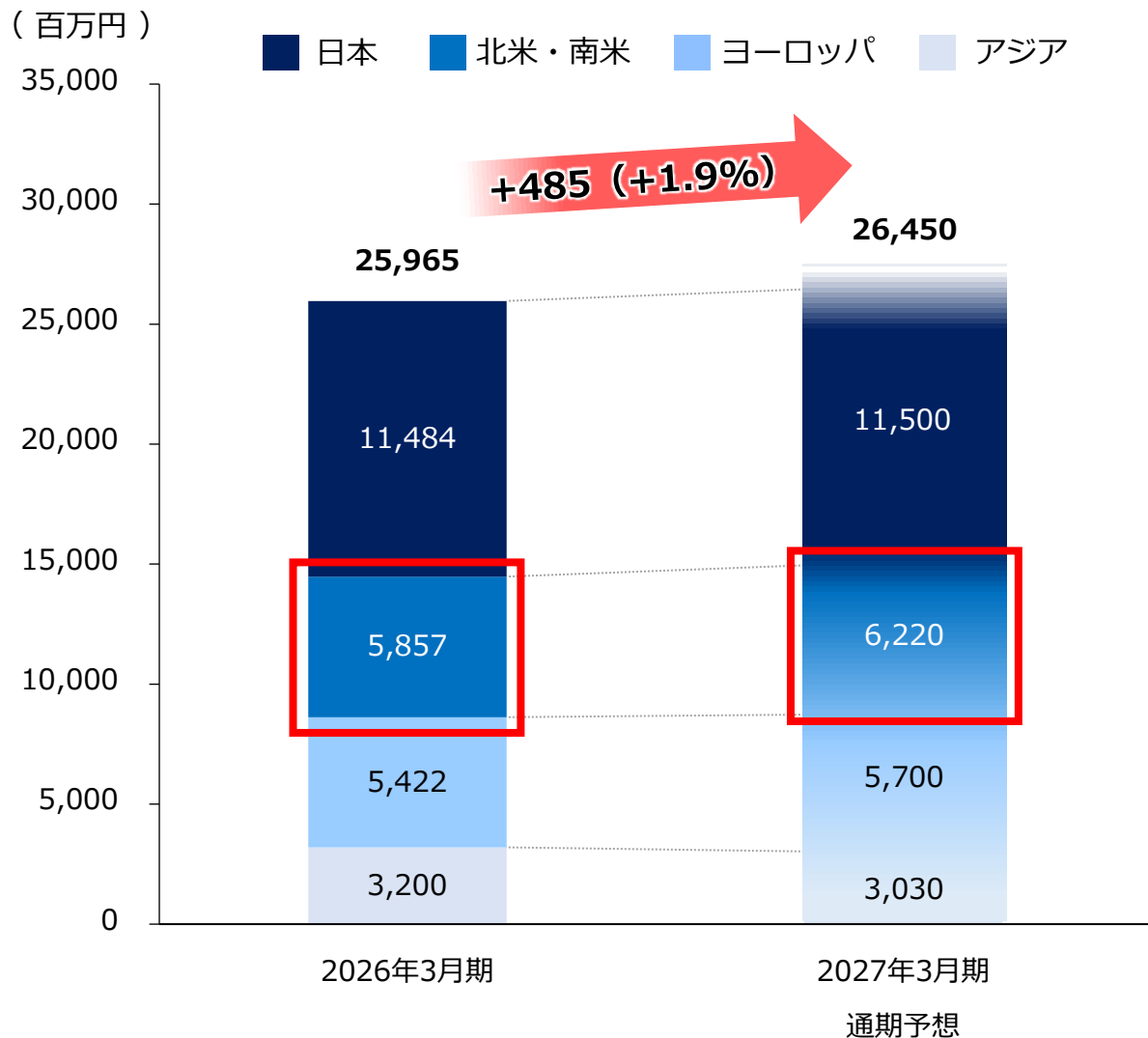
売上高予測



日本	<ul style="list-style-type: none"> ● 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想 ● 食品成形機は引き続き「中小企業省力化投資補助金」を活用した案件が増加すると予想 ● 国内全体においては、前期と同等の売上を見込む
北米・南米	<ul style="list-style-type: none"> ● アルチザンブレッド生産ラインなど、大型の製パンライン等の好調な受注が継続 ● 展示会 (IBIE) での見込客へアプローチ ● 包あん機は、周辺機器とのセット販売を強化
ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> ● 主力の小型製パン機であるツインデバイダーの販売が堅調であり、ドイツ以外の地域での販売を強化 ● 食品成形機は欧州全域において需要が増加し、修理その他の売上も計画通りに推移すると予想 ● アフリカでの営業展開を引き続き強化
アジア	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国は大型案件の受注が前期比で減少するものと予想 ● 台湾、東南アジア地区で堅調な設備更新需要を見込む ● インドマーケットでは、製パン市場拡大のため現地研究会を積極的に実施し販売増加を目指す ● オセアニア地区においては、アルチザンブレッド向け小型製パン機の販売増加を目指す

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

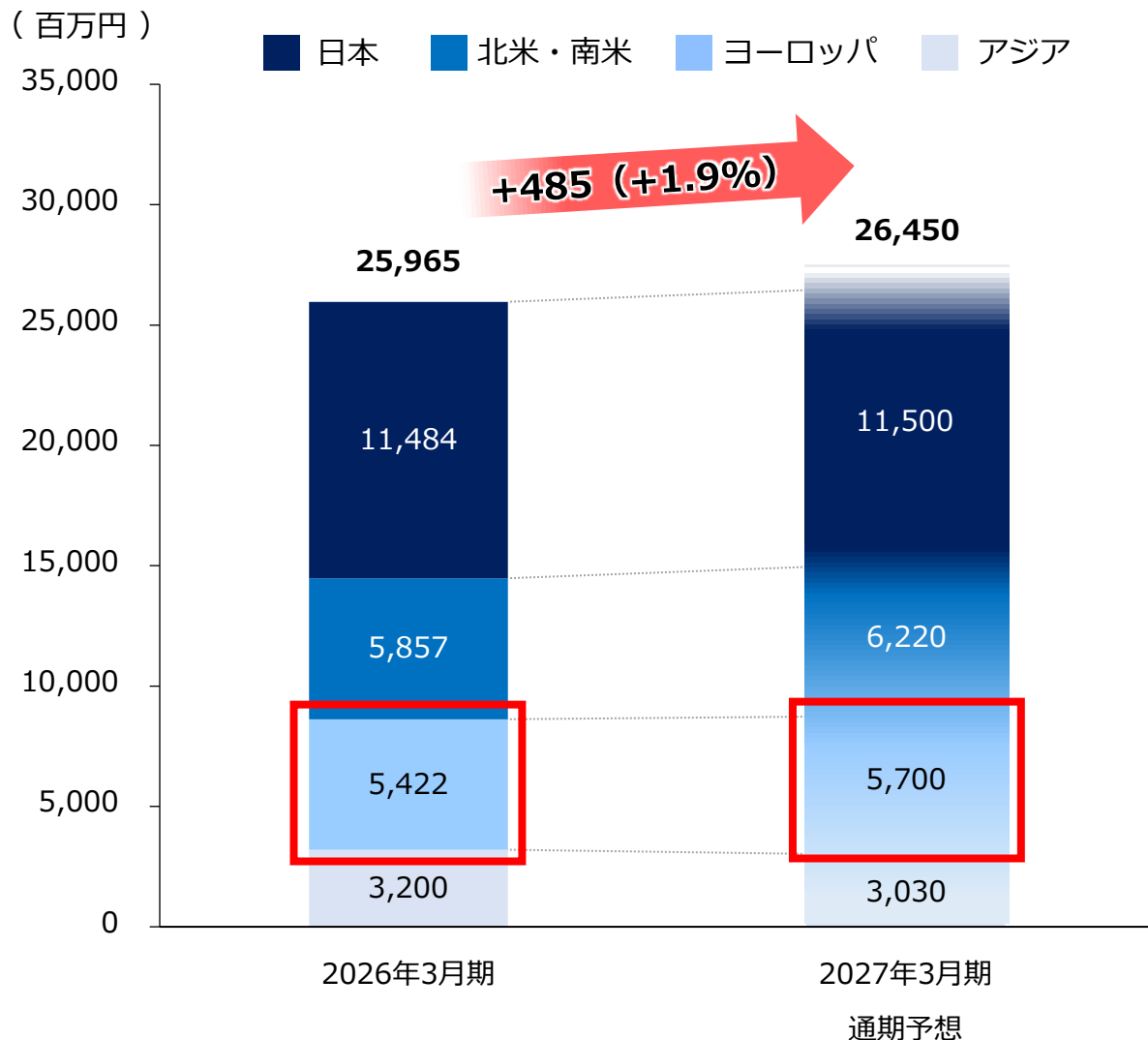
売上高予測



日本	<ul style="list-style-type: none"> ● 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想 ● 食品成形機は引き続き「中小企業省力化投資補助金」を活用した案件が増加すると予想 ● 国内全体においては、前期と同等の売上を見込む
北米・南米	<ul style="list-style-type: none"> ● アルチザンブレッド生産ラインなど大型の製パンライン等の好調な受注が継続 ● 展示会 (IBIE) での見込客へアプローチ ● 包あん機は、周辺機器とのセット販売を強化
ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> ● 主力の小型製パン機であるツインデバイダーの販売が堅調であり、ドイツ以外の地域での販売を強化 ● 食品成形機は欧州全域において需要が増加し、修理その他の売上も計画通りに推移すると予想 ● アフリカでの営業展開を引き続き強化
アジア	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国は大型案件の受注が前期比で減少するものと予想 ● 台湾、東南アジア地区で堅調な設備更新需要を見込む ● インドマーケットでは、製パン市場拡大のため現地研究会を積極的に実施し販売増加を目指す ● オセアニア地区においては、アルチザンブレッド向け小型製パン機の販売増加を目指す

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

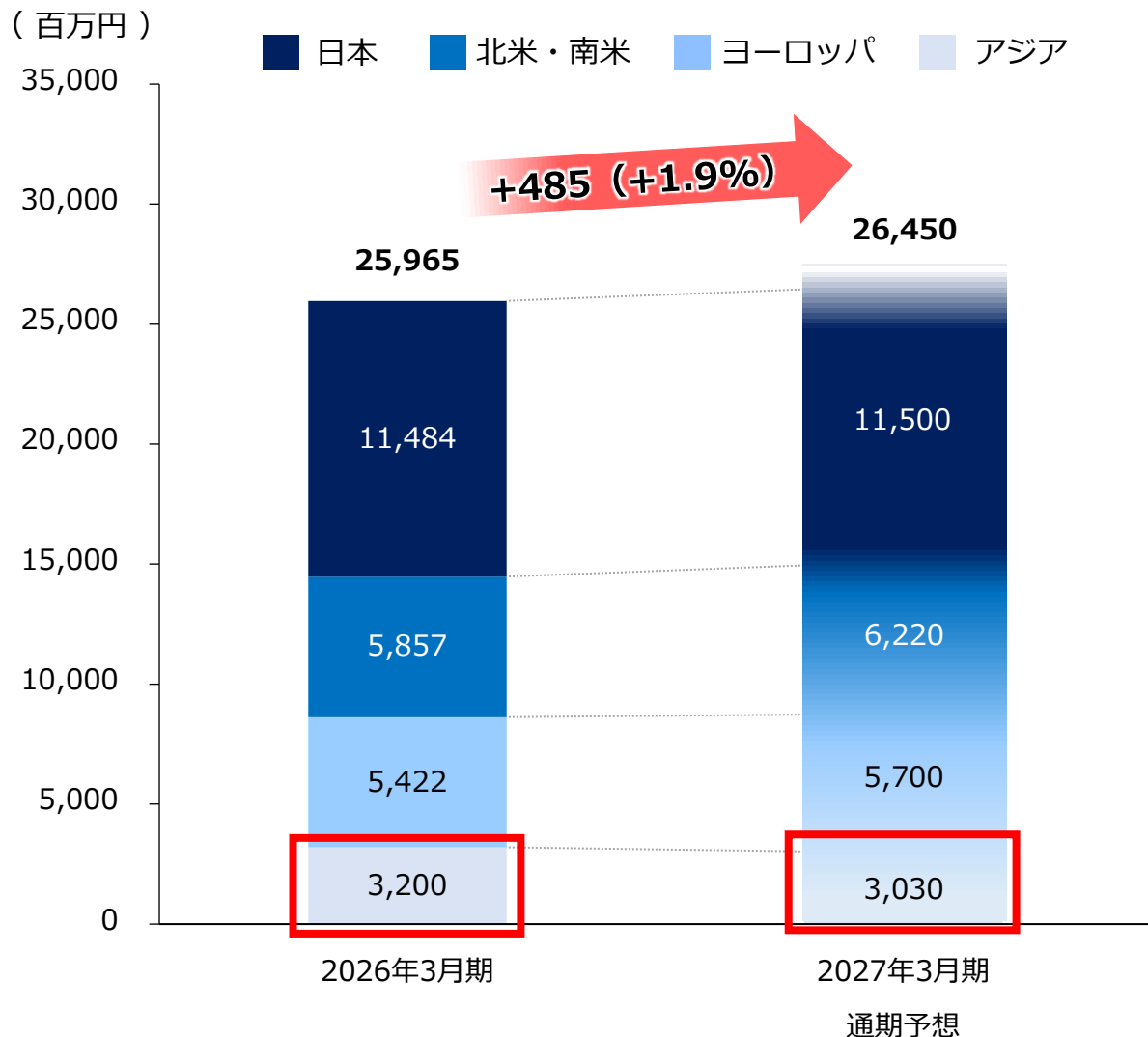
売上高予測



日本	<ul style="list-style-type: none"> ● 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想 ● 食品成形機は引き続き「中小企業省力化投資補助金」を活用した案件が増加すると予想 ● 国内全体においては、前期と同等の売上を見込む
北米・南米	<ul style="list-style-type: none"> ● アルチザンブレッド生産ラインなど、大型の製パンライン等の好調な受注が継続 ● 展示会 (IBIE) での見込客へアプローチ ● 包あん機は、周辺機器とのセット販売を強化
ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> ● 主力の小型製パン機であるツインデバイダーの販売が堅調でありドイツ以外の地域での販売を強化 ● 食品成形機は欧州全域において需要が増加し、修理その他の売上も計画通りに推移すると予想 ● アフリカでの営業展開を引き続き強化
アジア	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国は大型案件の受注が前期比で減少するものと予想 ● 台湾、東南アジア地区で堅調な設備更新需要を見込む ● インドマーケットでは、製パン市場拡大のため現地研究会を積極的に実施し販売増加を目指す ● オセアニア地区においては、アルチザンブレッド向け小型製パン機の販売増加を目指す

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

売上高予測

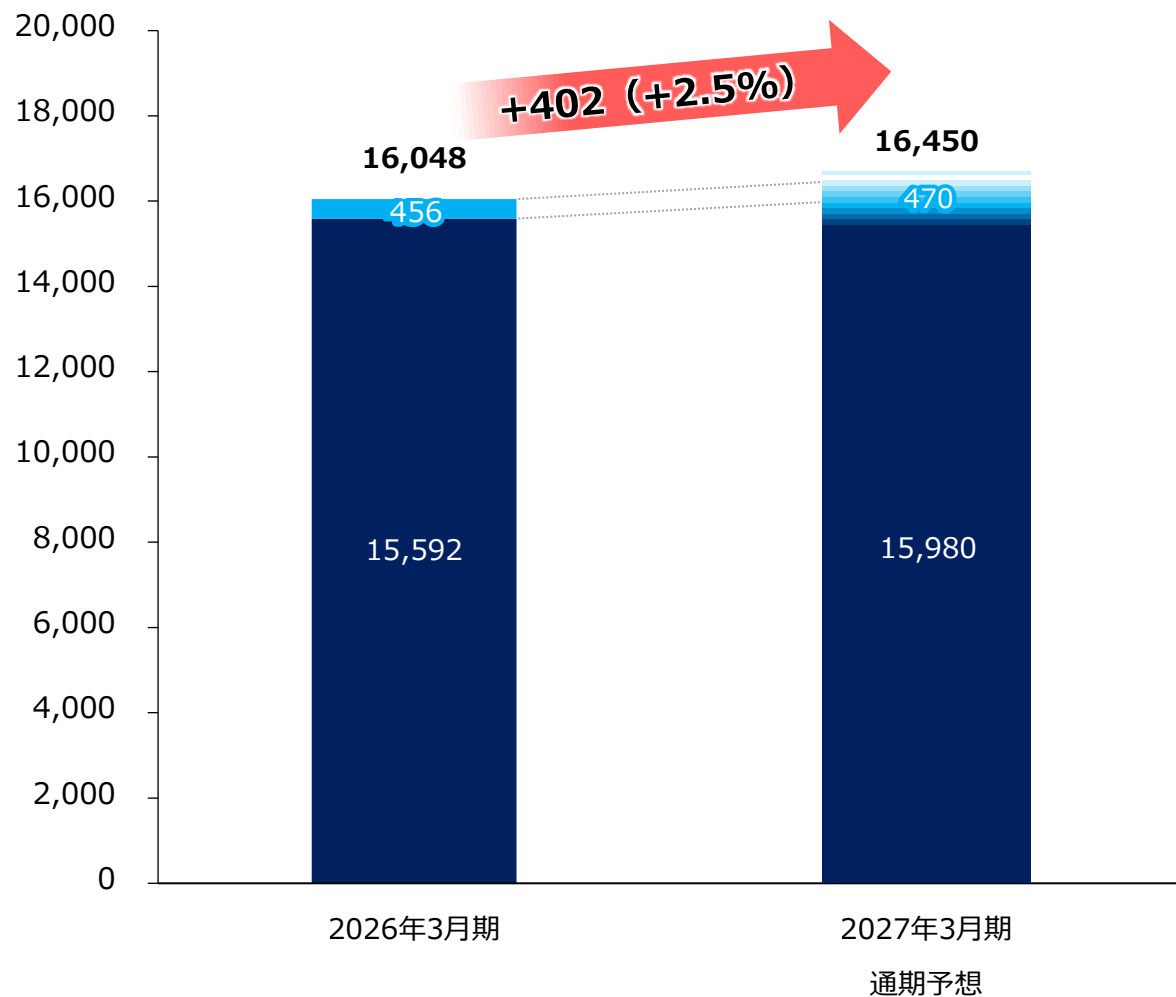


日本	<ul style="list-style-type: none"> ● 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想 ● 食品成形機は引き続き「中小企業省力化投資補助金」を活用した案件が増加すると予想 ● 国内全体においては、前期と同等の売上を見込む
北米・南米	<ul style="list-style-type: none"> ● アルチザンブレッド生産ラインなど、大型の製パンライン等の好調な受注が継続 ● 展示会 (IBIE) での見込客へアプローチ ● 包あん機は、周辺機器とのセット販売を強化
ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> ● 主力の小型製パン機であるツインデバイダーの販売が堅調であり、ドイツ以外の地域での販売を強化 ● 食品成形機は欧州全域において需要が増加し、修理その他の売上も計画通りに推移すると予想 ● アフリカでの営業展開を引き続き強化
アジア	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国は大型案件の受注が前期比で減少するものと予想 ● 台湾、東南アジア地区で堅調な設備更新需要を見込む ● インドマーケットでは、製パン市場拡大のため現地研究会を積極的に実施し販売増加を目指す ● オセアニア地区においては、アルチザンブレッド向け小型製パン機の販売増加を目指す

◆ 事業別業績予想 食品製造販売事業

売上高予測

(百万円) ■ 北米・南米 (オレンジベーカリー) ■ 日本 (ホシノ天然酵母パン種)



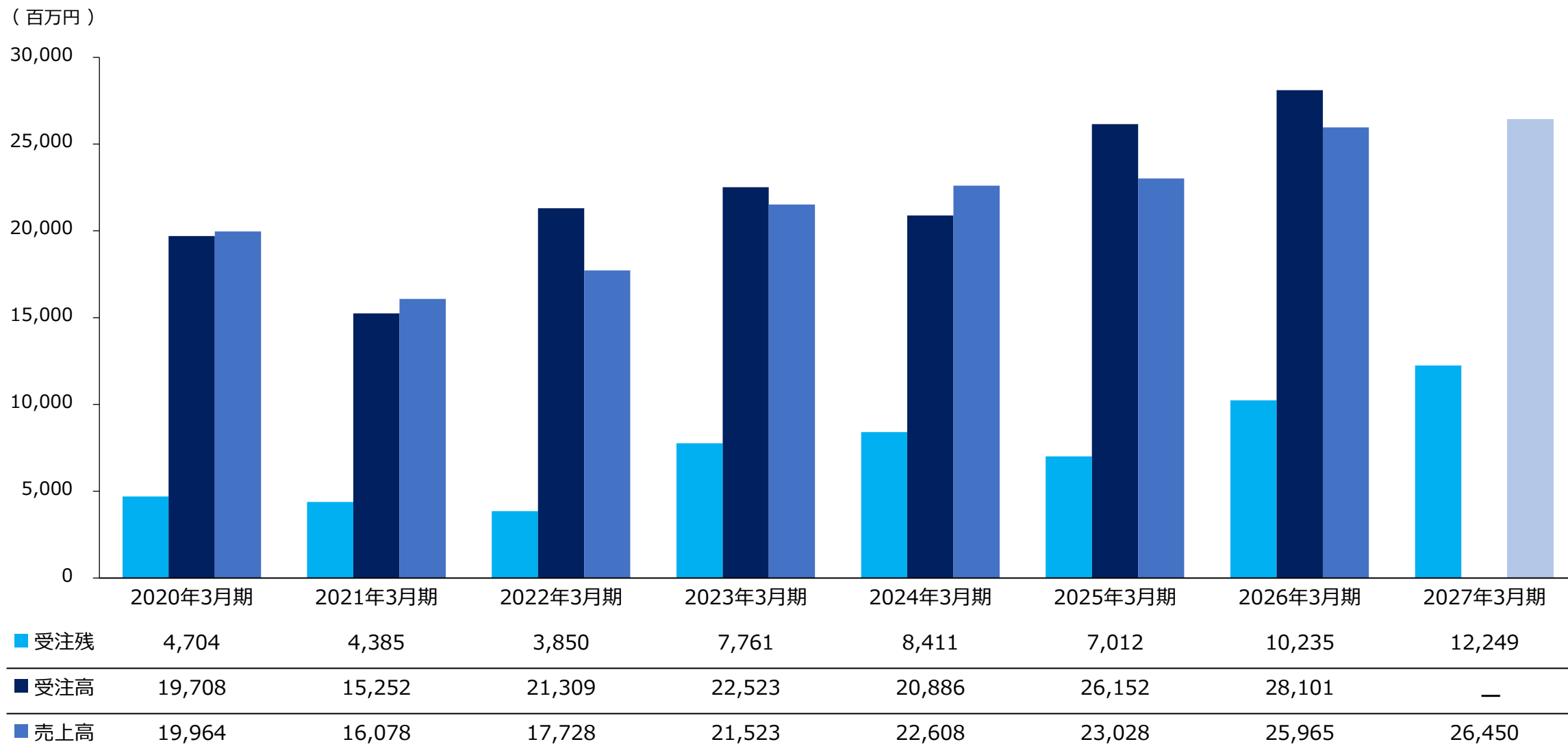
北米・南米 (オレンジベーカリー)

- ホイロ後冷凍製品の商品ラインアップを増やし、市場を拡大する
- 新規先への新商品提案営業を強化し通期での売上増加を図る

日本 (ホシノ天然酵母パン種)

- 各種展示会への出展、大口顧客への接触強化により拡販につなげる
- 製品講習会や見込客向け個別提案会の実施により売上増加を図る

◆ 食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移



※受注残は4月1日時点

◆ 〈参考〉 中東情勢の悪化によって想定される影響と対応

- 中東情勢の影響は、不確定要素が多いことから、先々の見通しは不透明。
- 今後の業績への具体的な影響については、判明した段階で速やかに開示。

想定される主な内容	想定される影響	対応の方向性
販売の制約	<ul style="list-style-type: none"> ● 現時点では安定した受注が取れている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売面では、引き続き受注を確保していく
原材料等の調達難	<ul style="list-style-type: none"> ● 原油由来資材の一部が品不足になっている状況 ● 樹脂部品や原油関連商品の調達難 例) 塗装用シンナー、切削油、樹脂材料など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 取引先と連携し、部材確保に尽力する ● 代替資材の調達の検討
仕入れ価格の上昇	<ul style="list-style-type: none"> ● 仕入れ部品（市販品、樹脂加工品等）の品薄に伴う値上げの要請 ● 収益性の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ● コストアップを吸収するための価格転嫁
原油高に伴うエネルギー価格高騰	<ul style="list-style-type: none"> ● 輸送運賃の高騰 ● 海外での配送遅延、停滞 	<ul style="list-style-type: none"> ● 輸送効率のアップ ● 効率的な配送体制の検討

◆ 設備投資額・減価償却費・研究開発費

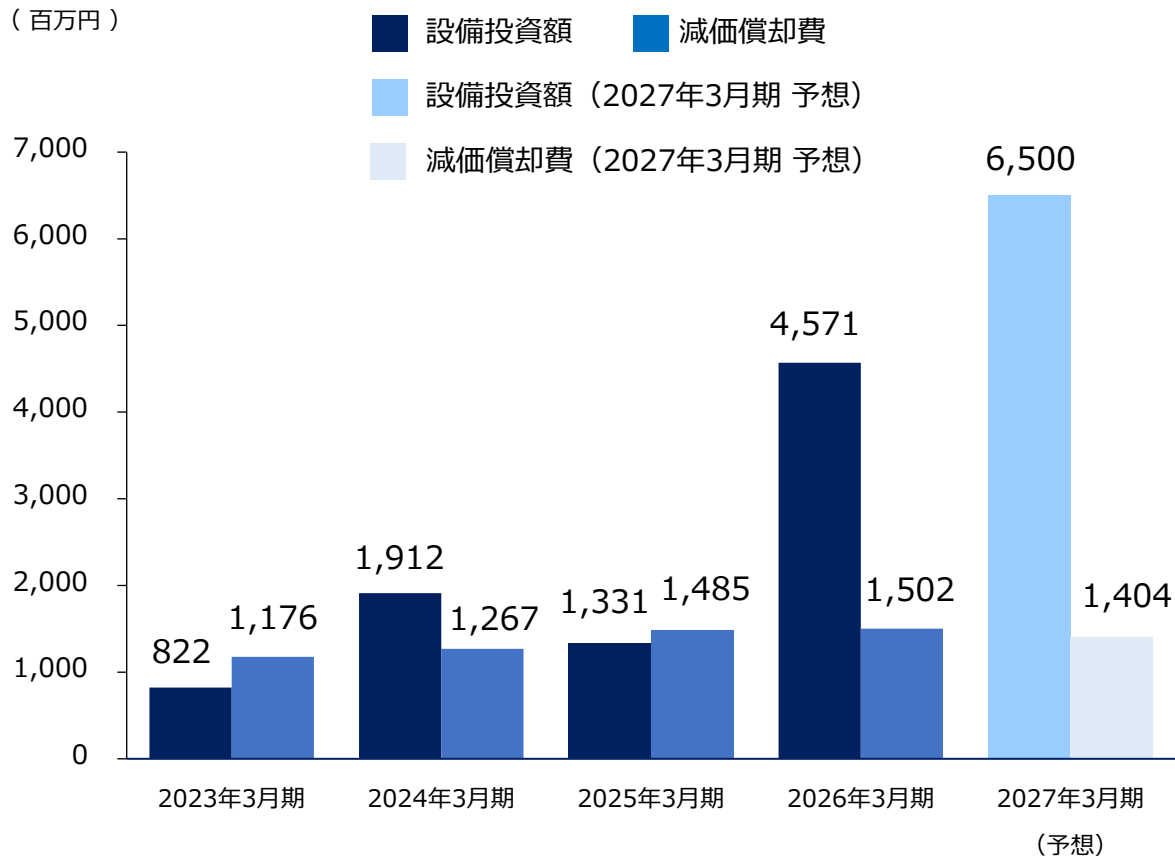
2026年3月期

オレンジベーカーリー新工場の物件取得、上河内工場の自動倉庫（オートストア）設備の導入などを実施。

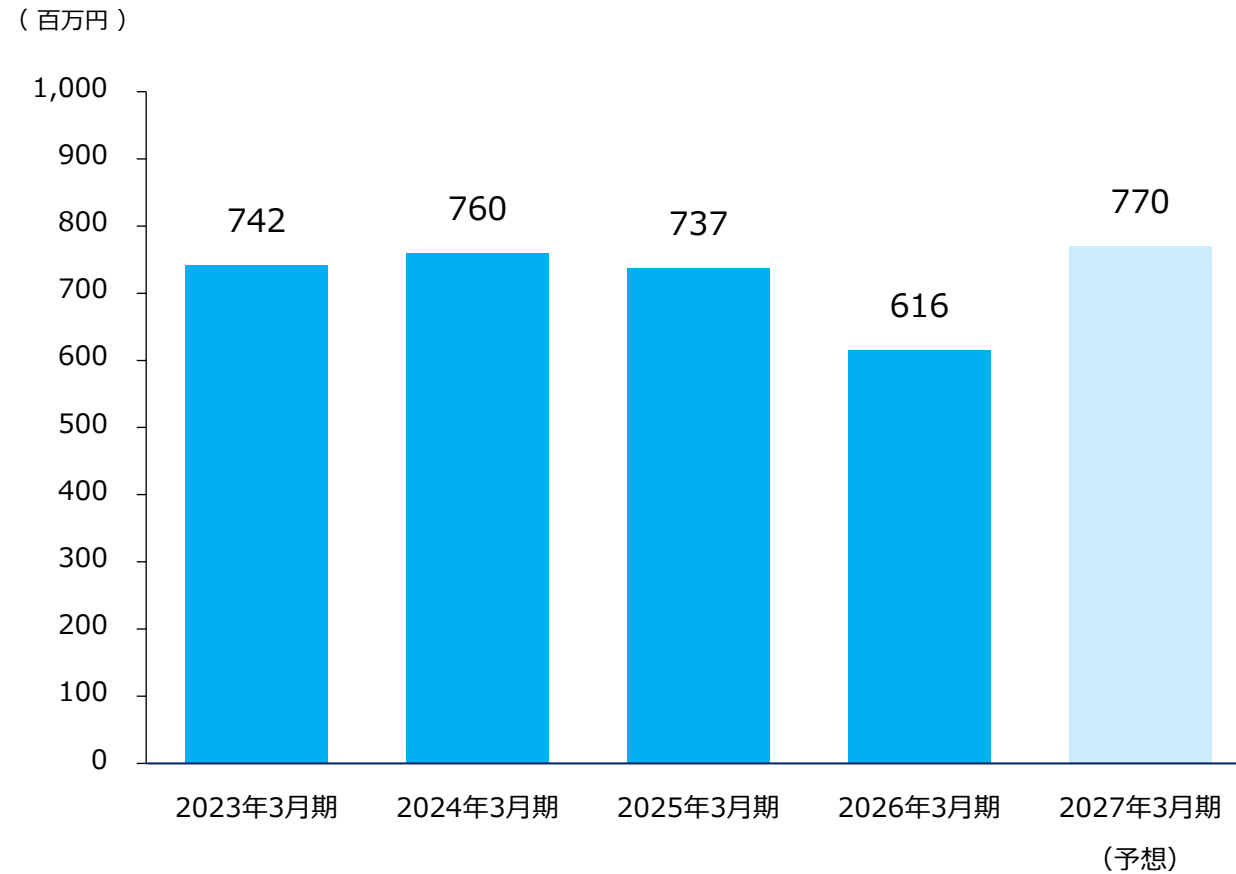
2027年3月期

設備投資の主なものは、オレンジベーカーリー新工場建設、上河内工場向けパレット自動倉庫など。

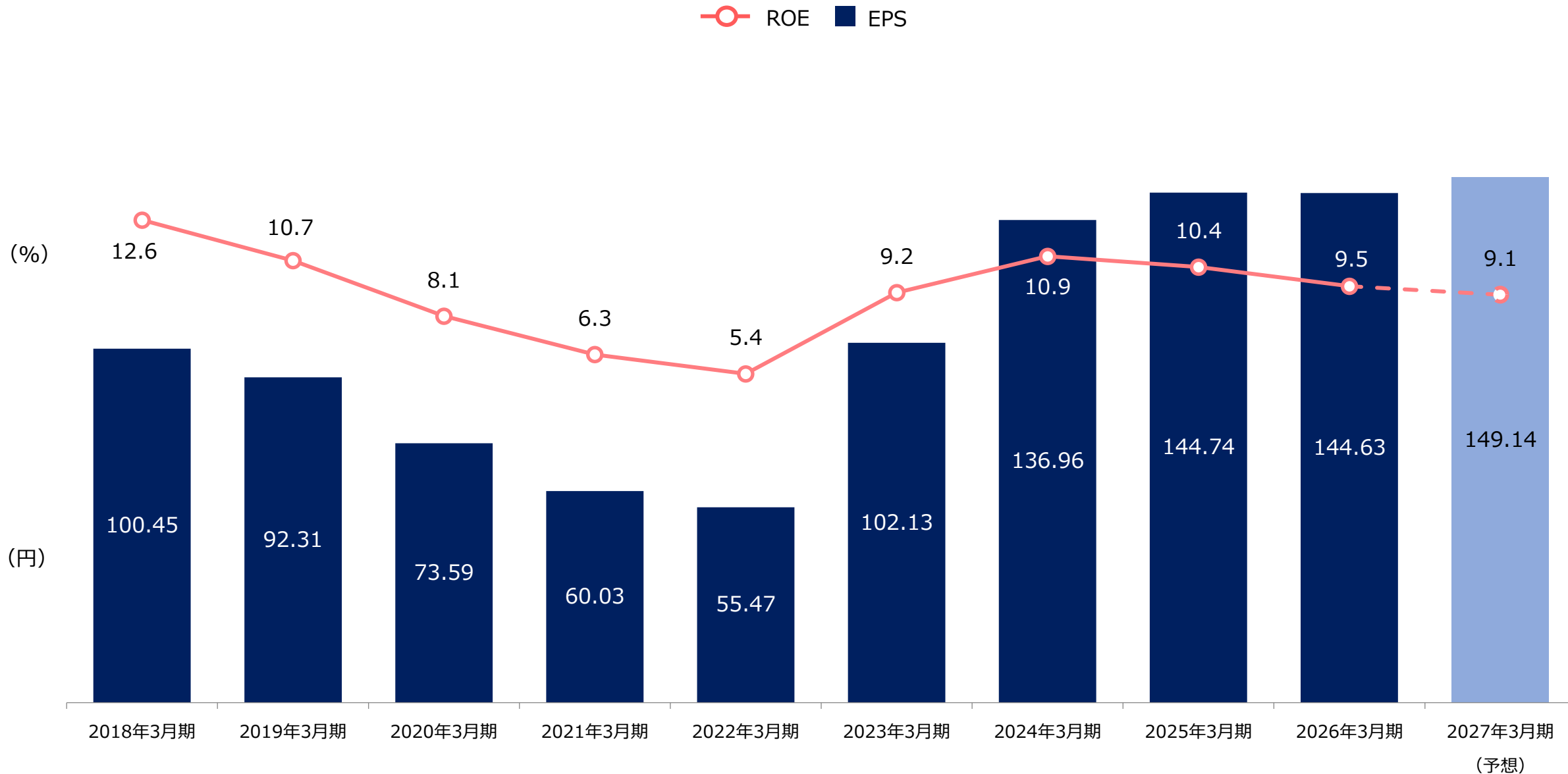
設備投資額・減価償却費



研究開発費

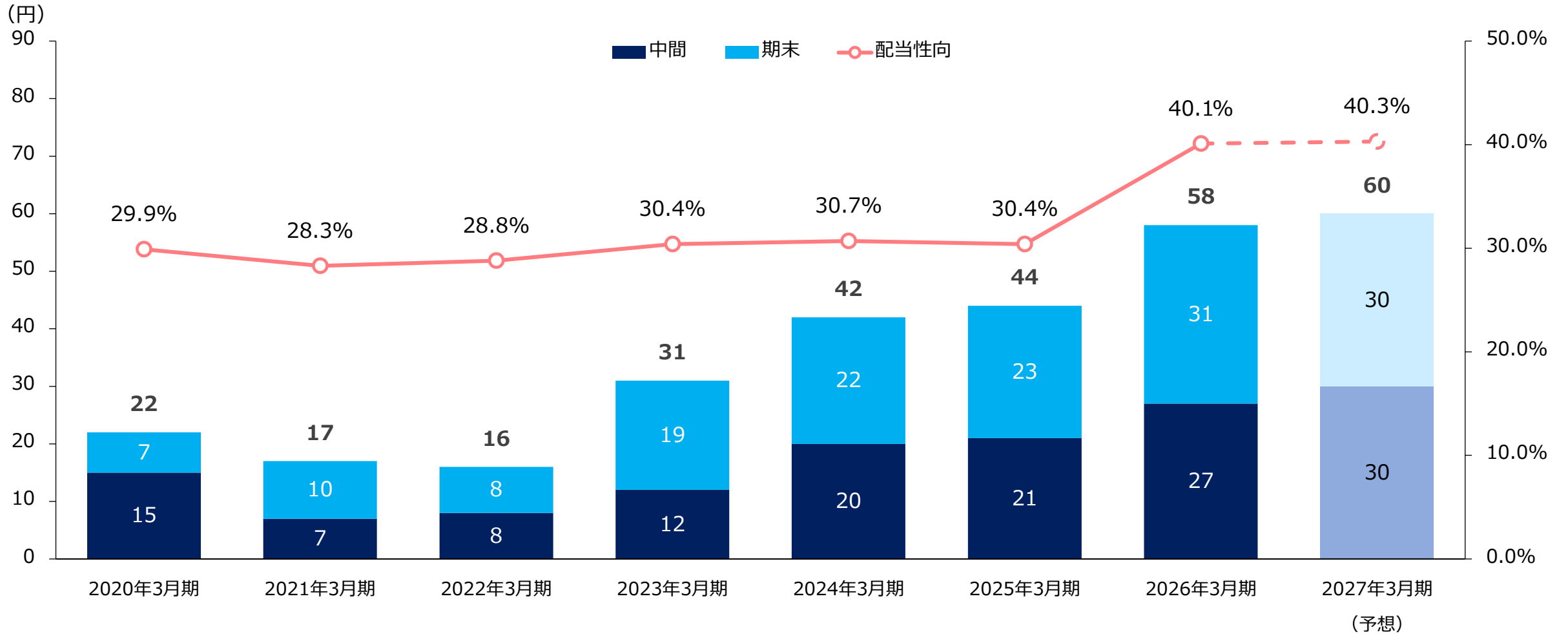


◆ ROE・EPSの推移



◆ 配当方針

- 今中期経営計画期間中（2026年3月期から2028年3月期）の連結配当性向の目標を40%以上とし、業績等を総合的に勘案し安定的な「**累進配当**」を行うことを基本方針とする。

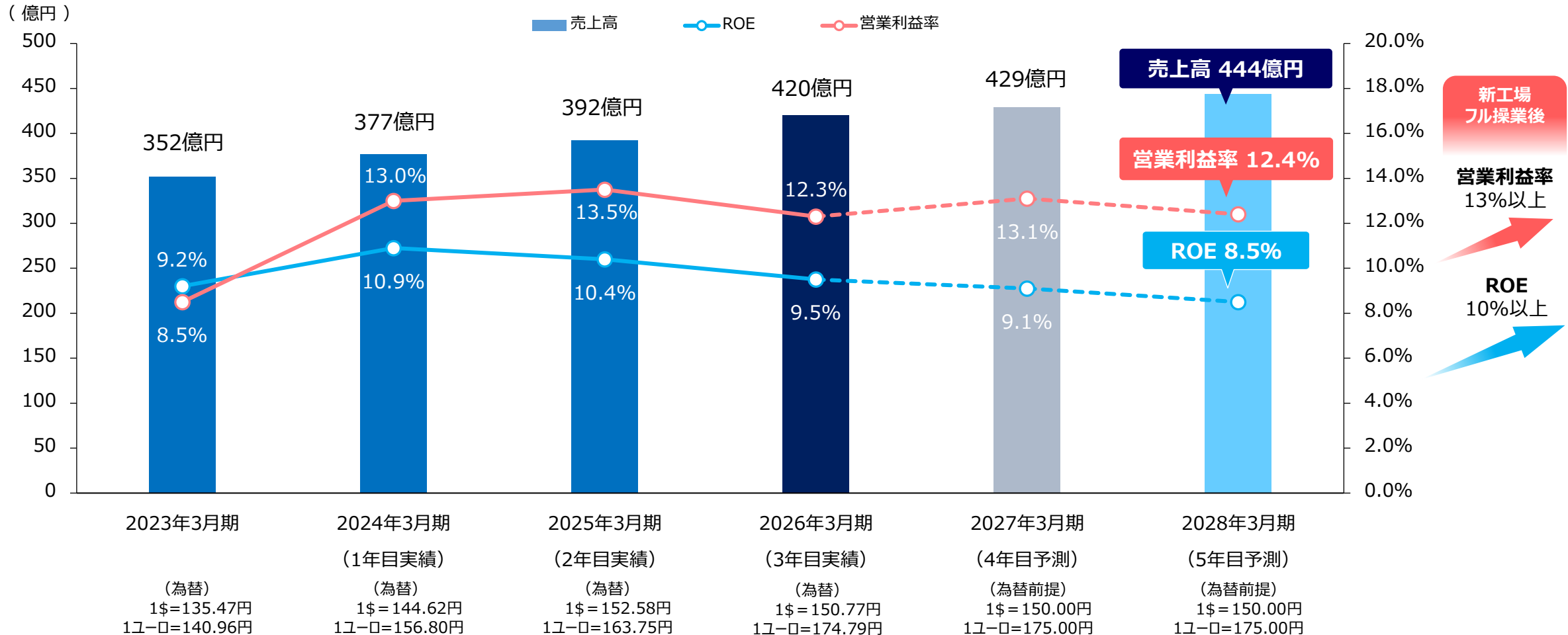


1. 2026年3月期 連結決算概況
2. 2027年3月期 連結業績予想
- 3. 中期経営計画 進捗状況
(2023-2027年度)**

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - 基本方針と基本戦略 -

テーマ：改革と企業基盤の強化

目まぐるしい市場環境の中、「成長基盤」「利益基盤」「経営基盤」の3つの基盤強化に取組み、『働きに喜びを感じる社会・会社』に向けて社会課題の解決と企業成長を図るための足場固めとする。



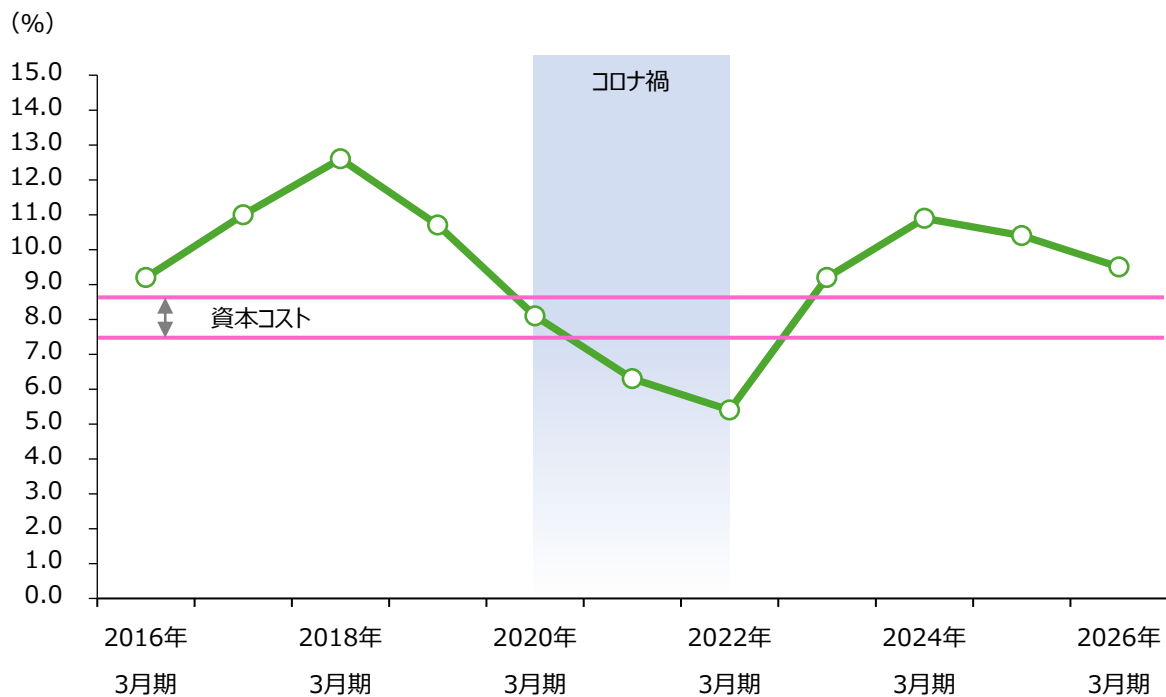
◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - 資本収益・資本コスト・株価を見据えた現状分析 -

- ROEは、コロナ禍から脱し経済が回復することで日米欧の食品加工機械製造販売事業や米国の食品製造販売事業が好調を維持し、資本コストを上回る状況である。
- PBRを1倍超に戻すためには、現状以上の企業価値向上や、株主還元の強化により、「ROE向上」と「資本コスト低減」を実施していく。

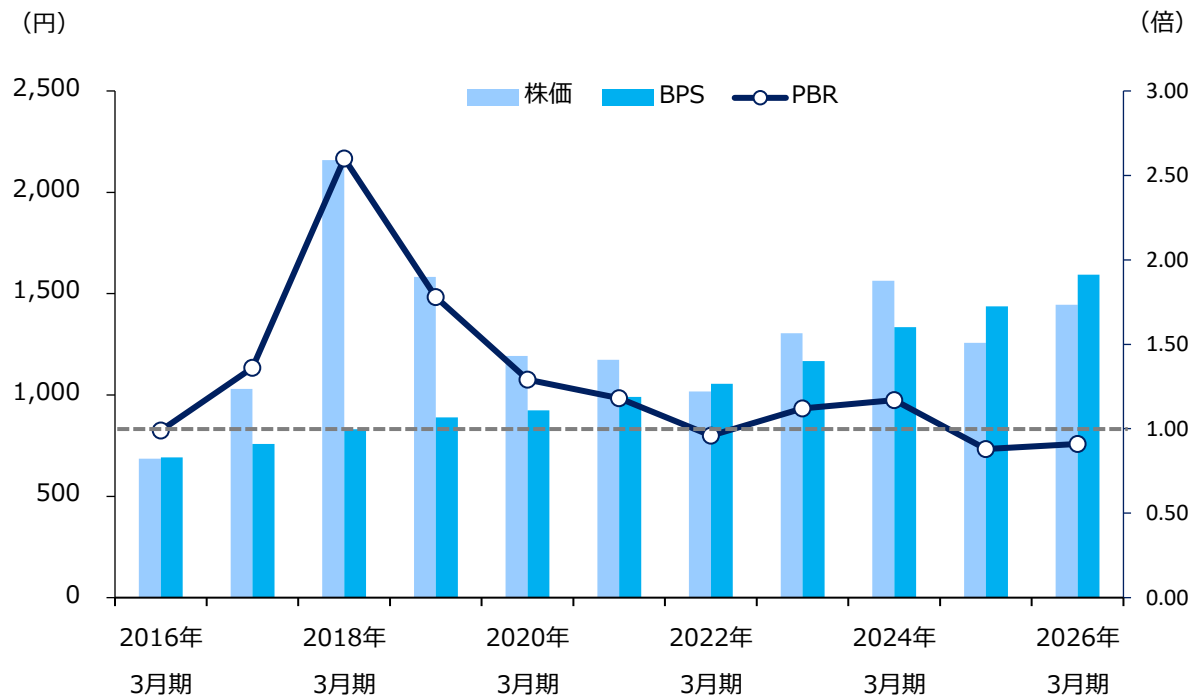
資本コスト	7.5～8.5%（CAPMで計算）
ROEの過去5年平均	9.1%（直近：9.5%）
PBRの過去5年平均	1.01倍（直近：0.91倍）

対話を通じて非財務情報の重要性を高め、資本コストの低減を図る
 2027年度のROEは新工場建設により8.5%に低下する見込み
 収益力向上や成長投資による事業拡大を進め株主価値を高める

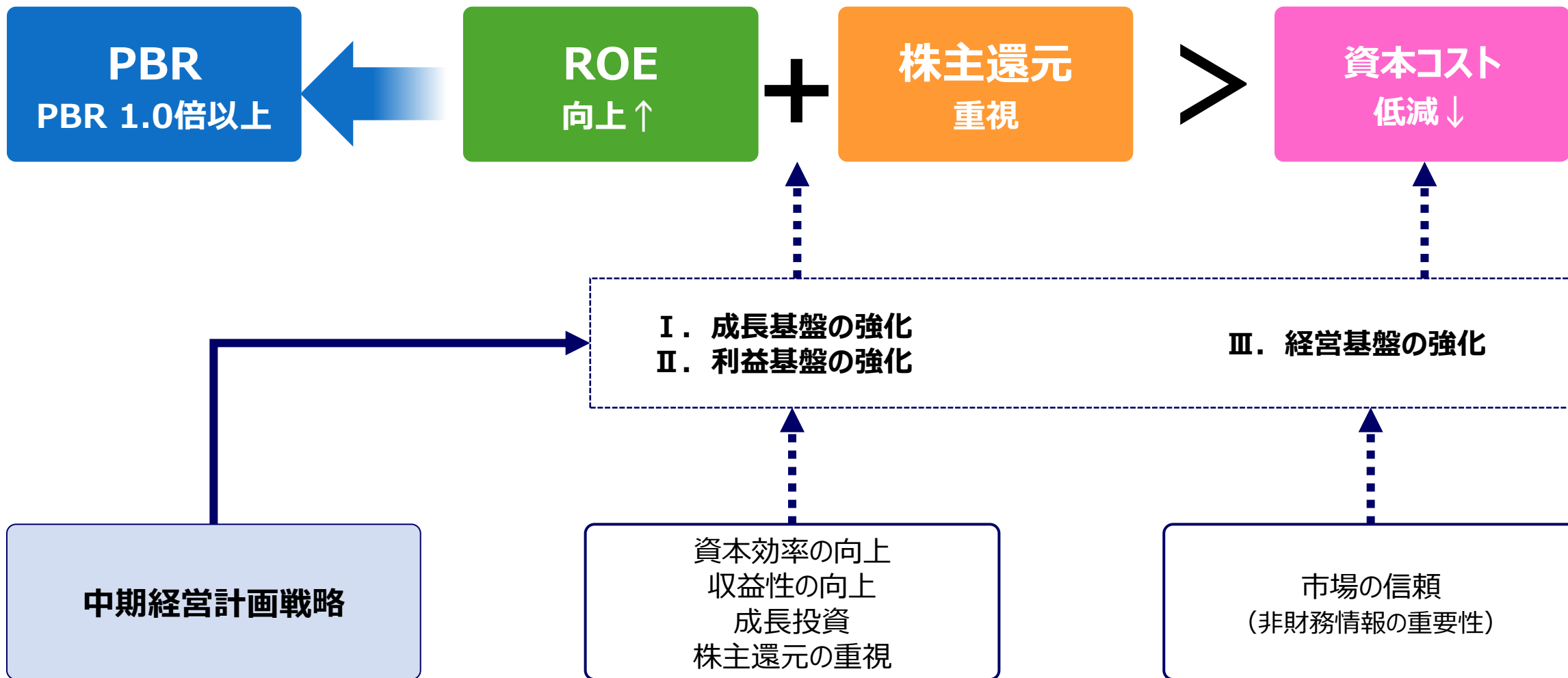
ROEの推移



PBRの推移



◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - 3つの基盤強化（Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ）による持続的な企業価値向上に向けた取り組み -



◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - I .成長基盤の強化：取り巻いている経営環境を事業機会として捉える -

食品加工機械製造販売事業：新機種開発、海外市場の拡大、国内の新たな市場の進出

2026年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● ペストリーラインの完成とスマートファクトリーに向けた開発を推進 ● 中国市場に新型KN700火星人を、ヨーロッパ市場に食肉用新型包あん機を投入し、市場拡大 ● インド・中東・アフリカの市場開拓 ● 国内の新規大手顧客（菓子卸・大手小売、調理冷凍食品等）へのアプローチを継続
2027年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● 2026年3月期を継続しペストリーラインの完成とスマートファクトリーに向けた開発を継続 ● 海外市場向け主力機種KN551火星人後継機の開発 ● 引き続き、インド・中東の市場拡大、アフリカ市場の開拓 ● 国内の大手顧客（製菓・冷凍食品・総合食品）との接点強化、大手製パンメーカー向け設備更新の提案継続

食品製造販売事業：オレンジベーカリーの拡大と開発技術の情報提供

2026年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートラインやクロワッサンベンダー開発のテストデータ提供 ● オレンジベーカリー新工場の検討
2027年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続きスマートラインやクロワッサンベンダーおよび高速ストレッチャー開発のテストデータ提供 ● オレンジベーカリー新工場の生産設備導入と稼働準備

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - II.利益基盤の強化：収益に左右されない利益基盤の構築 -

開発によるコスト削減

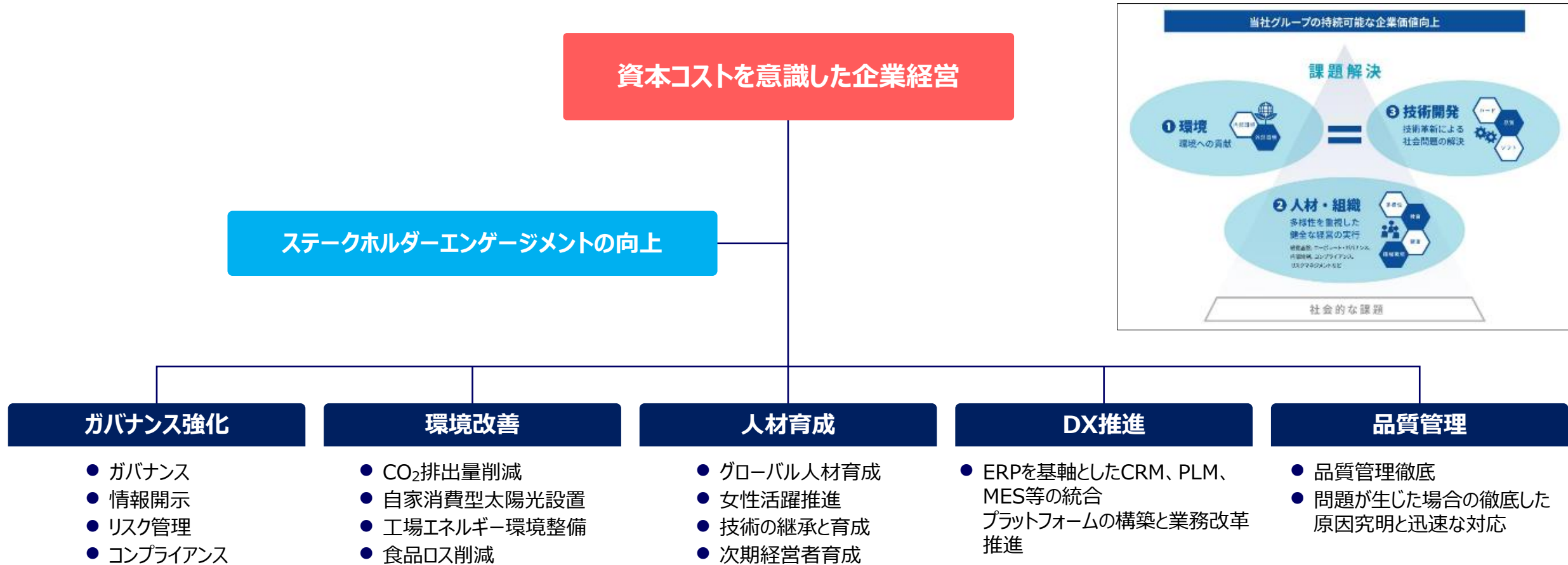
2026年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● 設計の標準化 → 販売実績のある製菓・製パンラインの標準化 ● 電気系統の標準化 → 標準配線図、タッチパネル標準化、予防保全プログラム
2027年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● 設計の標準化 → 2026年3月期を継続し販売実績のある製菓・製パンラインの標準化 ● 設計負荷の見える可 → 受注～設計着手までの最短スケジュールを見える化し、納期短縮を図る

生産性向上

2026年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● システム：MESシステムにおける実際原価可視化の稼働 ● 受注負荷状況の全社見える化 ● 生産設備投資 工作：DNCラインの更新、組立現場にAGVの導入 物流：自動倉庫（オートストア）の導入・稼働
2027年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● システム：ADISIGHTシステムにおける実際原価の正確性・透明性向上 ● 生産現場で活用するヒューマノイドロボットの研究 ● 生産設備投資 工作：組立現場に搬送用ロボット（AGV）の追加導入 物流：パレット自動倉庫の導入・稼働

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - Ⅲ.経営基盤の強化：健全経営を確立していく-

- ステークホルダーとの対話を通して、当社の「サステナビリティの3つの重点課題（環境、人材・組織、技術）解決」と「5つの経営基盤の強化」が、社会課題を解決する責務と健全経営の確立に必要と考えています。



※ ERP（企業資産計画）、CRM（顧客管理）、PLM（製品ライフサイクル管理）、MES（製造管理）

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - Ⅲ.経営基盤の強化：環境改善・人材育成 -

温室効果ガス（CO₂排出量）削減

2026年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● 2014年対比、82%削減（2030年80%削減目標） （東京営業所を除く全事業所を非化石燃料に切り替え） 	※Scope1、2
2027年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● 2014年対比、83%削減予定 	※Scope1、2

エネルギーマネジメント（消費電力削減）

2026年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● 上河内工場（第4工場）にて照明LED化および省エネタイプ空調機更新 ● 営業所に自家消費型太陽光発電設備設置の検討
2027年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● 照明LED化：上河内工場（第1～第4工場）継続、および札幌営業所 ● 引き続き、営業所に自家消費型太陽光発電設備設置の検討 ● 自家消費型太陽光発電設備用蓄電装置の導入検討

人材育成

2026年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル人材育成の継続：入社2年目の社員を中心に海外子会社での長期研修（9名） ● 社員教育：外部講師による講習やeラーニングによる育成支援
2027年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル人材育成の継続：入社2年目の社員を中心に海外子会社での長期研修（16名） ● 社員教育：若手社員の成長やキャリア形成をサポートするメンター制度の活用

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - 投資戦略 -

研究開発投資

2026年3月期 実績

6億1千万円

2027年3月期 予想

7億7千万円

設備投資

2026年3月期 実績

45億4千万円

- オレンジベーカー新工場（土地）
- 自動倉庫（オートストア）設備（上河内工場）

2027年3月期 予想

64億円

- オレンジベーカー新工場（建物、設備）
- パレット自動倉庫（上河内工場）

環境投資

2026年3月期 実績

3千万円

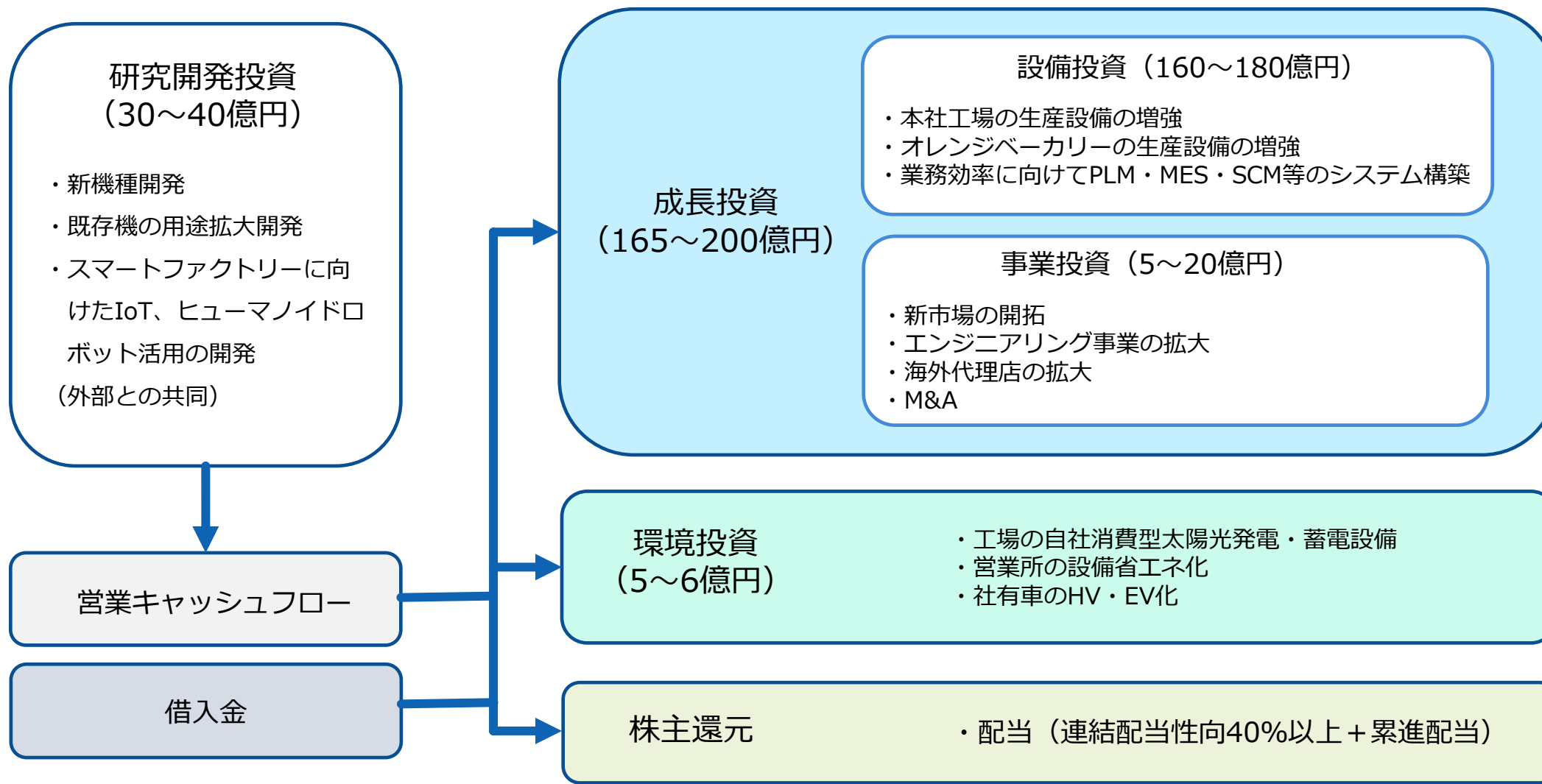
- 上河内工場（第4工場）にてLEDおよび省エネタイプ空調機更新

2027年3月期 予想

1億円

- 上河内工場（第2工場）にて省エネタイプ空調機更新および第1～第4工場LED化
- 営業所に自家消費型太陽光発電設置の検討

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - 投資戦略 -



社 是

“ 存在理由のある企業たらん ”

- 自社製品を通じてお客様に満足を提供する
- 世界の食文化に貢献する

「存在理由のある企業たらん」は、
レオングループが創業以来持ち続けている社是です。
これまでも、これからも、存在理由のある企業であり続けることが
レオングループの大切にしていることです。





《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的リスクや不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。